

CS1798/CS17916

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CS1798/CS17916 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2015 年 8 月 19 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	5
RoHS.....	5
SJ/T 11364-2006	6
安全にお使い頂くために.....	7
全般	7
ラックマウント	9
同梱品.....	10
本マニュアルについて.....	11
マニュアル表記について.....	12
第1章 はじめに.....	13
概要.....	13
概要.....	15
システム要件.....	17
コンソール.....	17
コンピューター	17
ケーブル	18
OS.....	18
製品各部名称	19
CS1798 フロントパネル	19
CS17916 フロントパネル.....	22
CS1798 リアパネル.....	25
CS17916 リアパネル.....	26
第2章 セットアップ	27
概要.....	27
セットアップの種類.....	27
セットアップの前に.....	27
卓上設置およびラックへの取付	28
重ね置き	28

ラックのフロント側への取付	29
ラックのリア側への取付	31
単体使用.....	33
接続図(単体使用)	34
2 段階カスケード接続.....	35
2 段階カスケード接続図	37
3 段階カスケード接続.....	38
3 段階カスケード接続図	39
マルチビュー機能を利用するためのセットアップ	40
マルチビューセットアップのためのケーブル接続	40
マルチビューセットアップ接続図.....	42
「垂直」チャンネルにポートをグループ化する方法.....	43
チャンネル接続図	44
第 3 章 基本操作.....	45
ホットプラグ	45
KVM ポートのホットプラグ	45
コンソールポートのホットプラグ	45
ポートの選択方法.....	46
手動による切替.....	46
ポート ID の割り当て	46
シャットダウンと再起動.....	47
第 4 章 OSD 操作.....	48
OSD の概要.....	48
製造番号	48
OSD のログイン	48
OSD ホットキー	48
OSD メイン画面.....	49
OSD メイン画面の項目	50
OSD ナビゲーション	50
OSD 機能.....	51
F1: GOTO	51
F2: LIST	52
F3: SET	52
F4: ADM	55
F5: SKP	60
F6: BRC	61

F7: SCAN.....	62
F8: LOUT.....	62
第 5 章 ホットキー操作.....	63
ホットキーによるポートの操作.....	63
ホットキーモード.....	64
ホットキーモードの起動.....	64
アクティブなポートの選択.....	65
オートスキャンモード.....	66
オートスキャンの起動.....	66
スキップモード.....	68
キーボード/マウスのリセット.....	69
ホットキービープ音の設定.....	69
クイックホットキーの切替.....	70
OSD ホットキーの設定.....	70
ポート OS の設定.....	71
ホットキーのデフォルト値への復元.....	71
USB リセット.....	72
ビープ音 オン/オフ.....	72
ビデオダイナシンク.....	72
マウスエミュレーション設定.....	73
ホットキーモード一覧表.....	74
第 6 章 キーボードエミュレーション.....	76
Mac キーボード.....	76
Sun キーボード.....	77
第 7 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティー.....	78
はじめに.....	78
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード.....	78
ファームウェアアップグレードの準備.....	79
アップグレードの開始.....	80
アップグレード成功.....	82
アップグレード失敗.....	82
ファームウェアアップグレードのリカバリー.....	83
OSD 設定のバックアップ/リストア.....	84
バックアップ.....	84
リストア.....	86
付録.....	87

CS1798/CS17916 接続台数一覧表	87
製品仕様.....	89
アドミニストレーターによるログイン失敗.....	91
工場出荷時におけるデフォルトホットキーと設定	92

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

CE による注意:本製品は Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。その際は、ユーザーご自身にて、適切な処置を行ってください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には

何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクタを公衆通信網に接続しないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

CS1798/CS17916 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

◆ CS1798/CS17916 8/16 ポート USB HDMI KVM スイッチ	×1
◆ KVM ケーブル (2L-7D02UH)	×2
◆ ファームウェアアップグレードケーブル	×1
◆ 電源アダプター	×1
◆ フットパッドセット (4pcs)	×1
◆ ラックマウントキット	×1
◆ クイックスタートガイド*	×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CS1798/CS17916 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:CS1798/CS17916 を紹介します。特長、機能概要、および製品各部名称について説明します。

第2章 セットアップ:基本的なハードウェアセットアップの手順から、3 段階のカスケード接続、そして、マルチディスプレイのセットアップの方法に至る、CS1798/CS17916 セットアップについて説明します。

第3章 基本操作:CS1798/CS17916 の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 OSD 操作:CS1798/CS17916 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明します。

第5章 ホットキー操作:CS1798/CS17916 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明します。

第6章 キーボード操作:PC 互換キーボードから Mac キーボード、および PC 互換キーボードから Sun キーボードへのキーボードエミュレーションマッピングについて説明します。

第7章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:お使いの CS1798/CS17916 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

8/16 ポート USB HDMI KVM スイッチ CS1798/CS17916 は、USB・HDMI インターフェースに対応した最大 8/16 台のサーバーへのアクセスと操作を集約し、1 組のコンソール(USB キーボード、USB マウス、モニターコンソール)から切り替えることのできる、多目的なKVMスイッチです。CS179 は最大 3 段階のカスケード接続に対応し、最大 512 台を操作することができます。また、CS17916 は最大 2 段階のカスケード接続に対応し、最大 256 台のサーバーを切り替えることができます。

さらに、コンピューターが複数のビデオカードを搭載している場合、最大 8 台の本製品を USB ケーブルで接続すれば、マルチディスプレイ(最大 8 画面)によるビデオ出力が可能な「マルチディスプレイ機能」が利用できます。その上、本製品は ATEN 独自のビデオダイナシンク機能を搭載しているため、最適なディスプレイ解像度での出力が可能です。

また、本製品は接続コンピューターにアクセスするのに、(1)各ユニットのフロントパネルに設けられたポート選択ボタンの使用、(2)キーボードからのホットキー入力、(3)OSD(オンスクリーンディスプレイ)機能で提供されているメニューの選択、といった 3 つの方法を提供しています。オートスキャン機能を使えば、製品の配下にあるすべてのコンピューターを自動的にスキャンして監視をすることも可能です。

CS1798/CS17916 はマルチメディアキーボードとオーディオに対応しています。スピーカー2 セットを接続し、各コンピューターのオーディオ出力をお楽しみいただけます(ただし、一度に出力できるのは 1 箇所のみ)。

セットアップは、必要となるケーブルを該当ポートに接続するだけです。簡単で時間もかかりません。ソフトウェアをセットアップする必要もありませんし、一連のセットアップ作業や互換性の問題とも無縁です。CS1798/CS17916 はキーボード入力を直接受信しますので、マルチプラットフォームに対応しています(PC 互換、Mac*、Sun*など)。

CS1798/CS17916 は、お使いのシステムで使用するすべてのコンピューターを 1 箇所のコンソ

ールから管理することができますので、次のようなメリットが得られます。(1) コンピューターごとに、それぞれキーボード、モニター、マウスを購入する費用を削減、(2) 周辺機器が使用するスペースの削減、(3) 光熱費の節約、(4) 作業するコンピューターを変えるたびに、移動しなければならない不便さと無駄な労力の削減。

-
- 注意:**
1. CS1798/CS17916 には、1) 単体使用/カスケード接続での使用、2) マルチビューでの使用、というケーブルの接続方法が異なる 2 通りのセットアップ方法があります。したがって、この 2 種類の機能を 1 つのセットアップ方法で同時に利用することはできません。
 2. PC/AT キーボードでもキーの組み合わせで Sun/Mac キーボードの特殊キー入力が可能。Mac・Sun コンピューターは USB 接続に対応していなければなりません (p.18「ケーブル」参照)。
-

概要

- ◆ HDMI タイプのコンピューター8/16 台と USB2.0 デバイス 2 台を、1 箇所の USB コンソールから切り替えて操作可能
- ◆ HDMI 準拠
- ◆ カスケード接続対応 - CS1798 は最大 3 段階カスケード接続で最大 512 台のコンピューター、CS17916 は最大 2 段階カスケード接続で最大 256 台のコンピューターを操作可能※¹
- ◆ マルチディスプレイ機能 - CS1798/CS17916 を最大 8 台接続して、コンピューター(最大 7/15 台)を切り替えてマルチディスプレイ(最大 8 画面)に出力(デュアル/トリプル/クワッド/マルチディスプレイ)※²
- ◆ USB2.0 ハブを 2 ポート搭載※³
- ◆ ポート切替方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、多言語 OSD
- ◆ KVM、USB は個別切替に対応※⁴
- ◆ OSD バックアップ/リストア機能 - アドミニストレーターは本製品の設定やユーザー設定情報をバックアップすることが可能
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ ビデオダイナシンク(ディスプレイエミュレーション) - ブート時のディスプレイ問題を回避し、ポート切替時の解像度を最適化する ATEN の独自機能搭載
- ◆ 解像度 - 最大 1080p、1,920×1,200@60Hz
- ◆ ワイド画面解像度対応
- ◆ オーディオ対応 - ベースレスポンスに優れた 2.1ch サラウンドオーディオ出力
- ◆ アクセスしやすいように、フロントパネルにコンソールオーディオポートを配置
- ◆ オートスキャンモード - 製品に接続された特定のコンピューターを自動的に切替表示
- ◆ HDCP 準拠
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun
- ◆ コンソールマウスポートエミュレーション/バイパス機能対応で、ほとんどのマウスドライバと多機能マウスに対応
- ◆ キーボードエミュレーション機能 - 選択されていないポートのコンピューターもエラーなく起動
- ◆ Mac/Sun キーボードエミュレーション対応※^{5, 6}
- ◆ 多言語 OSD 対応 - 日本語、英語、ドイツ語、中国語(繁体字/簡体字)、スペイン語、ロシア語、フランス語
- ◆ 多言語キーボードマッピング - 日本語、英語(アメリカ/イギリス)、ドイツ語(ドイツ/スイス)、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、ハンガリー語、スウェーデン語、韓国語、中

-
- 注意:**
- ※1. CS1798 は、配下に CS1798 のみカスケード接続できます。CS17916 は、配下に CS1798 および CS17916 の両方をカスケード接続できます。
 - ※2. カスケード接続の場合、この構成はご利用になれません。
 - ※3. カスケード接続の機器構成における2段階目と3段階目のKVMスイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。
 - ※4. 個別切替を行う場合は、マウスエミュレーション機能を有効にする必要があります。
 - ※5. PC/AT キーボードでもキーの組み合わせで Sun/Mac キーボードの特殊キー入力が可能。Mac・Sun コンピューターは USB 接続に対応していなければなりません。
 - ※6. Mac・Sun 用キーボードも使用可能です。(Windows マシンでは特殊キーが効きません)
-

システム要件

コンソール

- ◆ 接続するコンピューターすべての最大解像度に対応した HDMI 仕様準拠モニター

注意: マルチビュー機能をご使用の場合は、モニターが複数台必要です。詳細は p.40「マルチビュー機能を利用するためのセットアップ」を参照してください。

- ◆ USB マウス
- ◆ USB キーボード
- ◆ スピーカー(オプション)

コンピューター

各コンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ HDMI カード

注意:

1. 画質は HDMI カードに品質に左右されます。最良の画質を得るために高品質の HDMI カードをご購入されることを推奨します。
2. マルチビュー機能をご利用の場合は、コンピューターには複数の HDMI カードが必要です。詳細は p.40「マルチビュー機能を利用するためのセットアップ」を参照してください。

- ◆ USB タイプ A ポート
- ◆ スピーカーポート(オプション)

ケーブル

- ◆ コンピューターとの接続には本製品用に設計された専用 USB HDMI KVM ケーブルをご使用ください。本製品には専用ケーブルが 2 本同梱されています。

注意： 画質はケーブルの品質と長さに左右されます。さらにケーブルが必要な場合は、販売店までお問い合わせの上、本製品に適したものをご購入ください。

タイプ	長さ	型番
USB HDMI KVM ケーブル	1.8m	2L-7D02UH

- ◆ マルチビュー機能をご使用の場合は、標準 USB タイプ A - USB タイプ B ケーブルと標準 HDMI ケーブル

注意： CS1798/CS17916 で対応しているのは、スピーカーポートのみです。KVM ケーブルのマイクروفोन用コネクタは接続しないでください。

OS

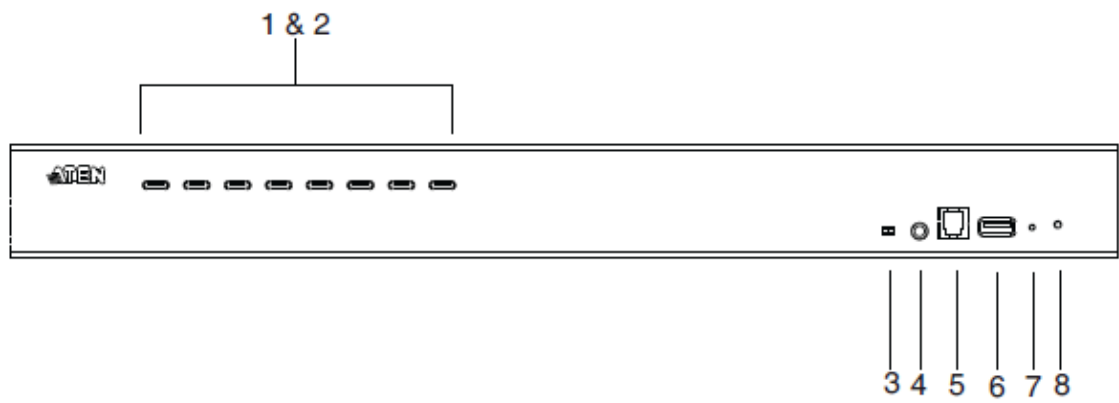
OS		バージョン
Windows		2000、XP、2003、2008、Vista、7、Windows 8
Linux	RedHat	9.0 以降
	SuSE	10、11.1 以降
	Debian	3.1、4.0
	Ubuntu	7.04、7.10
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	5.5 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	6.0 以降
Mac		OS 9～10.6 (Snow Leopard)

注意：

1. Linux Kernel 2.6 以降対応。
2. CS1798/CS17916 には USB2.0 ハブが内蔵されているので、USB2.0 非対応のコンピューターや OS では動作しません。

製品各部名称

CS1798 フロントパネル



No.	名称	説明
1	ポート選択ボタン	<p>手動でポートを切り替えます (p.46 「ポートの選択方法」も参照してください)。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ ポート選択ボタンを押して 2 秒以内に指を離すと、KVM 操作、USB ハブおよびオーディオがそのポートに接続されたコンピュータへと切り替わります。◆ ポート選択ボタンを 2 秒以上押すと、KVM 操作とオーディオ*がそのポートに接続されたコンピュータへと切り替わります。◆ ポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 2 秒間押すと、オートスキャンモード*を開始します。詳細は p.66 「オートスキャンモード」を参照してください。◆ ポート選択ボタン 7 と 8 を同時に 2 秒間押すと、キーボードとマウスをリセットします。p.69 「キーボード/マウスのリセット」も参照してください。 <p>注意: 個別に切替を行いたい場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください (p.59 参照)。</p>

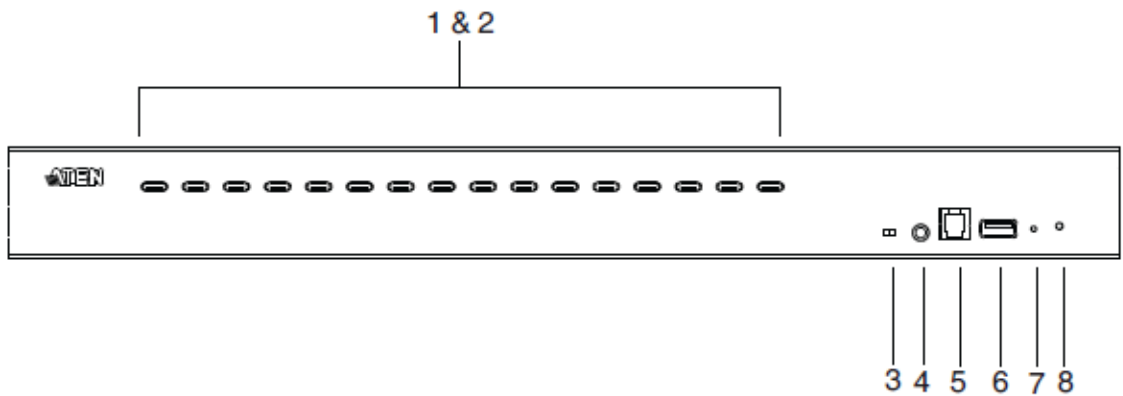
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	ポート LED ランプ	<p>ポートLED ランプはポート選択ボタンに内蔵されています。左側は KVM ポート LED ランプで、右側は USB LED ランプです。</p> <p>KVM</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 暗いオレンジ色に点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターに電源が入り、稼働中であることを表します (オンライン)。 ◆ 点滅している場合、ファームウェアアップグレードモードが有効であることを表します。 ◆ 明るいオレンジ色に点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターの KVM 操作ができる (KVM スイッチによって選択されている) ことを表します。 ◆ 点滅している場合、そのポートに接続されたコンピューターがオートスキャンモードでアクセスされていることを表します。 <p>USB</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ グリーンに点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターから USB デバイスにアクセスしていることを表します。
3	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	<p>通常操作時およびファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチを「NORMAL」(通常)の位置にしてください。ファームウェアアップグレードに失敗した際に、このスイッチを使用してファームウェアアップグレードを回復させます。詳細は p.83 「ファームウェアアップグレードの復元」を参照してください。</p>
4	オーディオポート	<p>メインスピーカーのケーブルをここに接続します。このポートに接続されたスピーカーはリアパネルに接続されたものより、優先的に使用されます。</p>
5	ファームウェアアップグレードポート	<p>アドミニストレーターのコンピューターからアップグレードデータを製品本体に転送するファームウェアアップグレードケーブルは、この RJ-11 ポートに接続します。</p>
6	USB2.0 ハブ	<p>USB2.0 デバイス(プリンター、スキャナー等)をこのポートに接続します(外部電源アダプターが必要になる場合があります)。</p> <p>注意:カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。</p>

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
7	リセットスイッチ	<p>このスイッチを押すとシステムをリセットします。システムのリセット時には、スイッチからビープ音が鳴り、リセットが完了するまでポート LED ランプが点滅します。リセットの完了後、再びログインすることができます。</p> <p>注意:このスイッチはピンホール型ボタンですので、紙クリップやボールペンのような先が細い物で押すようにしてください。</p>
8	電源 LED ランプ	点灯している場合、スイッチに電源が入り、使用できる状態であることを表します。

CS17916 フロントパネル



No.	名称	説明
1	ポート選択ボタン	<p>手動でポートを切り替えます (p.46 「ポートの選択方法」も参照してください)。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ ポート選択ボタンを押して 2 秒以内に指を離すと、KVM 操作、USB ハブおよびオーディオがそのポートに接続されたコンピュータへと切り替わります。◆ ポート選択ボタンを 2 秒以上押すと、KVM 操作とオーディオ*がそのポートに接続されたコンピュータへと切り替わります。◆ ポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 2 秒間押すと、オートスキャンモード*を開始します。詳細は p.66 「オートスキャンモード」を参照してください。◆ ポート選択ボタン 15 と 16 を同時に 2 秒間押すと、キーボードとマウスをリセットします。p.69 「キーボード/マウスのリセット」も参照してください。 <p>注意: 個別に切替を行いたい場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください (p.59 参照)。</p>

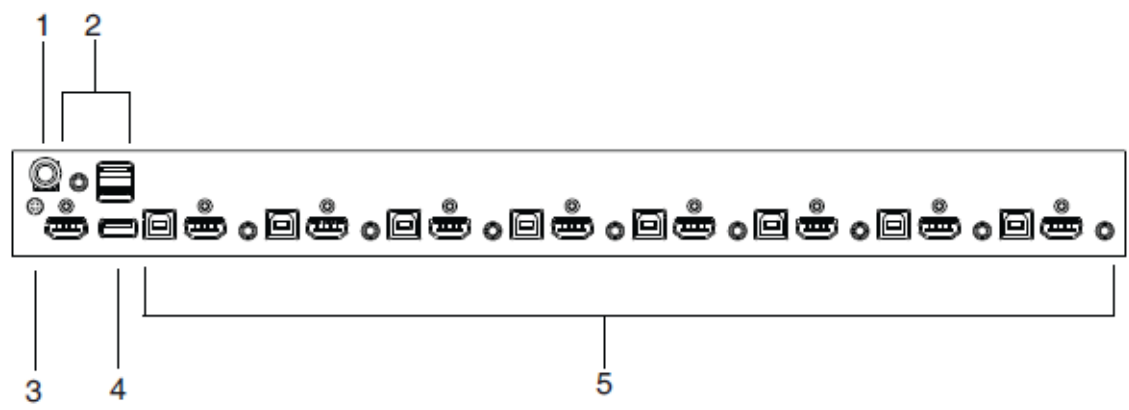
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	ポート LED ランプ	<p>ポートLED ランプはポート選択ボタンに内蔵されています。左側は KVM ポート LED ランプで、右側は USB LED ランプです。</p> <p>KVM</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 暗いオレンジ色に点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターに電源が入り、動作中であることを表します (オンライン)。 ◆ 点滅している場合、ファームウェアアップグレードモードが有効であることを表します。 ◆ 明るいオレンジ色に点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターの KVM 操作ができる (KVM スイッチによって選択されている) ことを表します。 ◆ 点滅している場合、そのポートに接続されたコンピューターがオートスキャンモードでアクセスされていることを表します。 <p>USB</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ グリーンに点灯している場合、そのポートに接続されたコンピューターから USB デバイスにアクセスしていることを表します。 <p>注意:カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。</p>
3	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	<p>通常操作時およびファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチを「NORMAL」(通常)の位置にしてください。ファームウェアアップグレードに失敗した際に、このスイッチを使用してファームウェアアップグレードを回復させます。詳細は p.83 「ファームウェアアップグレードの復元」を参照してください。</p>
4	オーディオポート	<p>メインスピーカーのケーブルをここに接続します。このポートに接続されたスピーカーはリアパネルに接続されたものより、優先的に使用されます。</p>
5	ファームウェアアップグレードポート	<p>アドミニストレーターのコンピューターからアップグレードデータを製品本体に転送するファームウェアアップグレードケーブルは、この RJ-11 ポートに接続します。</p>

(表は次のページに続きます)

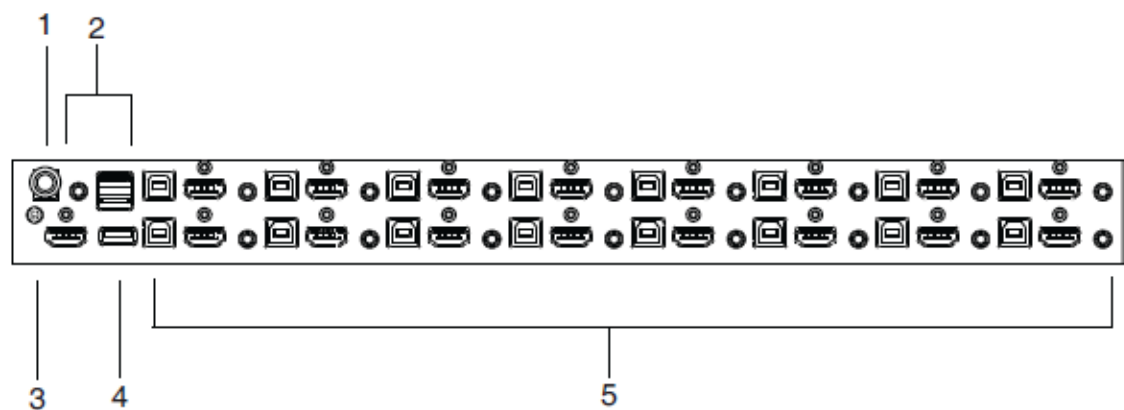
No.	名称	説明
6	USB2.0 ハブ	<p>USB2.0 デバイス(プリンター、スキャナー等)をこのポートに接続します(外部電源アダプターが必要になる場合があります)。</p> <p>注意:カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。</p>
7	リセットスイッチ	<p>このスイッチを押すとシステムをリセットします。システムのリセット時には、スイッチからビープ音が鳴り、リセットが完了するまでポート LED ランプが点滅します。リセットの完了後、再びログインすることができます。</p> <p>注意:このスイッチはピンホール型ボタンですので、紙クリップやボールペンのような先が細い物で押すようにしてください。</p>
8	電源 LED ランプ	<p>点灯している場合、スイッチに電源が入り、使用できる状態であることを表します。</p>

CS1798 リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ジャック	電源アダプターのケーブルをここに接続します。
2	コンソールポート セクション	コンソール用の HDMI モニター、USB キーボード、USB マウス、スピーカーの各ケーブルをここに接続します。各コネクタにはそれぞれ接続するデバイスのアイコンが描かれています。
3	接地ターミナル	製品本体を接地する接地線をここに接続します (オプション)。
4	USB2.0 ハブ	USB2.0 デバイス (プリンター、スキャナー等) をこのポートに接続します (外部電源アダプターが必要になる場合があります)。 注意: カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。
5	KVM ポート セクション	コンピューターと接続するケーブルをここに接続します。各 KVM ポートセクションにはスピーカージャック、USB タイプ B ポートおよびスクリューロック付き HDMI コネクタがあります。

CS17916 リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ジャック	電源アダプターのケーブルをここに接続します。
2	コンソールポート セクション	コンソール用の HDMI モニター、USB キーボード、USB マウス、スピーカーの各ケーブルをここに接続します。各コネクターにはそれぞれ接続するデバイスのアイコンが描かれています。
3	接地ターミナル	製品本体を接地する接地線をここに接続します (オプション)。
4	USB2.0 ハブ	USB2.0 デバイス (プリンター、スキャナー等) をこのポートに接続します (外部電源アダプターが必要になる場合があります)。 注意: カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。
5	KVM ポート セクション	コンピューターと接続するケーブルをここに接続します。各 KVM ポートセクションにはスピーカージャック、USB タイプ B ポートおよびスクリーロック付き HDMI コネクターがあります。

第2章 セットアップ

概要

異なる OS を混在させて便利で柔軟に使用できるようにするため、CS1798/CS17916 では、コンピューターと製品本体の接続に、専用 USB HDMI KVM ケーブルを使用します (p.34 の接続図を参照)。

各コンピューターの接続には、別途、専用 USB HDMI KVM ケーブルが必要になります。専用 KVM ケーブルの型番は p.18「ケーブル」に記載しています。どの KVM ケーブルが適しているか、販売店までお問い合わせください。

セットアップの種類

CS1798/CS17916 には、1)単体使用/カスケード接続による使用、2)マルチビュー機能の使用、といった 2 種類のセットアップ方法があります。これらの方法では、ケーブルの接続方法が異なりますので、一つの機器構成の中で両方の種類の機能を同時に利用することはできません。ケーブル接続方法の違いについては、本章における後述のセクションを参照してください。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.7 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

卓上設置およびラックへの取付

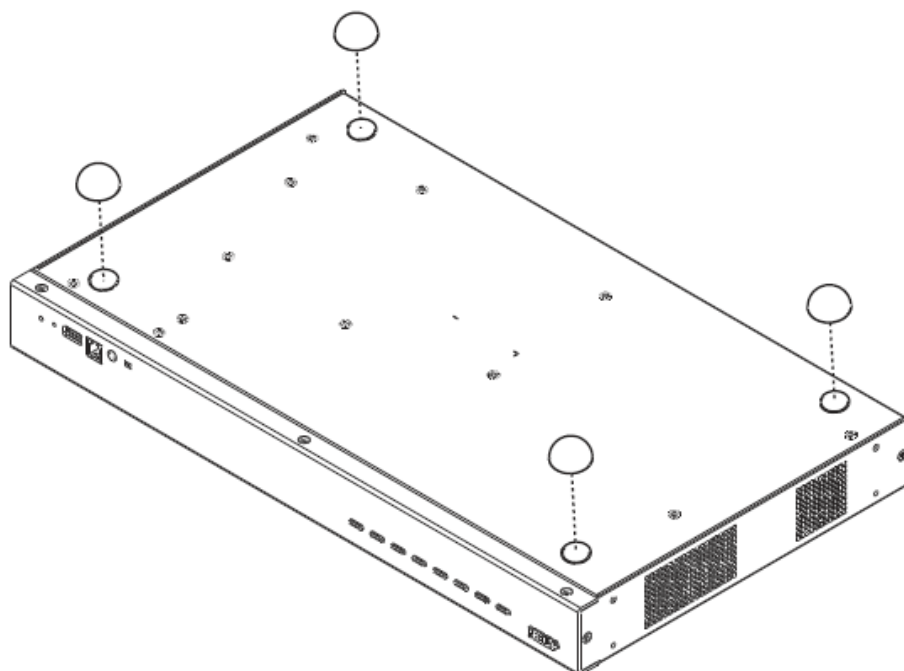
CS1798/CS17916 は机の上に設置することも、ラックのフロント側またはリア側に取り付けることもできます。以下の項目でそれぞれの方法の手順を示します。

- 注意:**
1. 適切な通気を確保するために製品の両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。
 2. 標準ラックマウントキットにはネジとケーシングナットは同梱されていません。ネジとケーシングナットが必要な場合は、ラックの販売店までお問い合わせください。

重ね置き

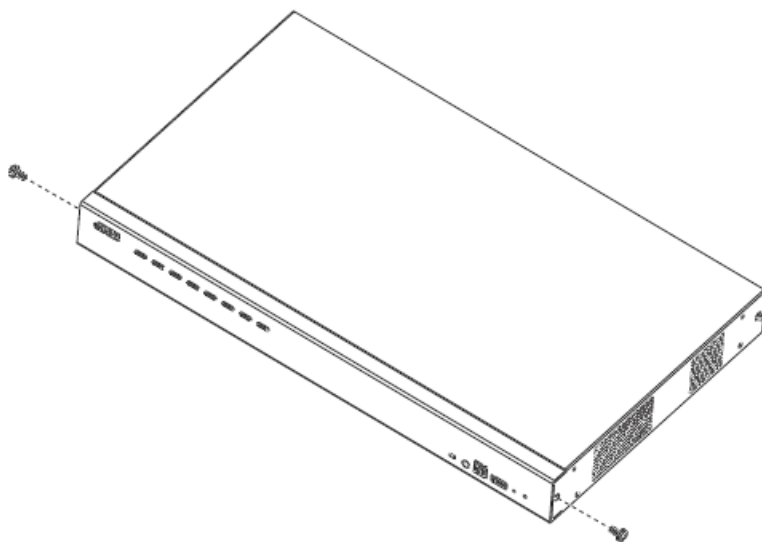
CS1798/CS17916 は製品本体および接続ケーブルの総重量に耐えうる安定した水平な場所であれば、どんな場所にも設置することができます。製品本体の通気を妨げたり、通常操作の邪魔になったりするような物が設置場所の表面にないことを確認してください。

CS1798/CS17916 を設置する、またはカスケード接続で本製品を重ね置きするには、本製品に同梱されているゴム製フットパッドの裏面の剥離紙をはがしてから、下図のように本製品の底面の四隅に貼り付けてください。

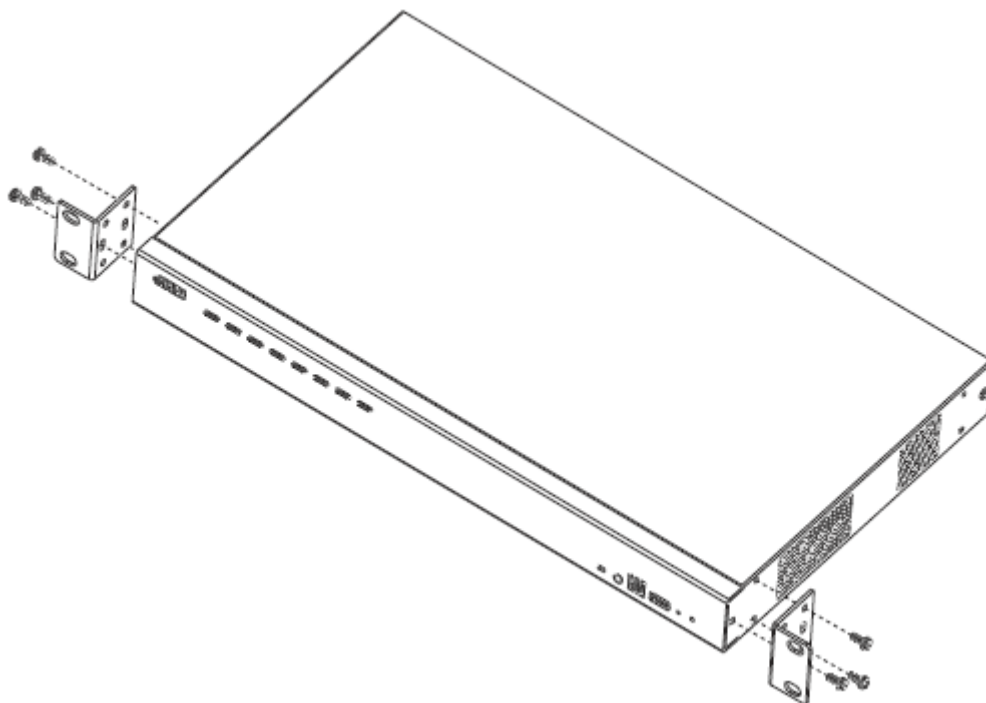


ラックのフロント側への取付

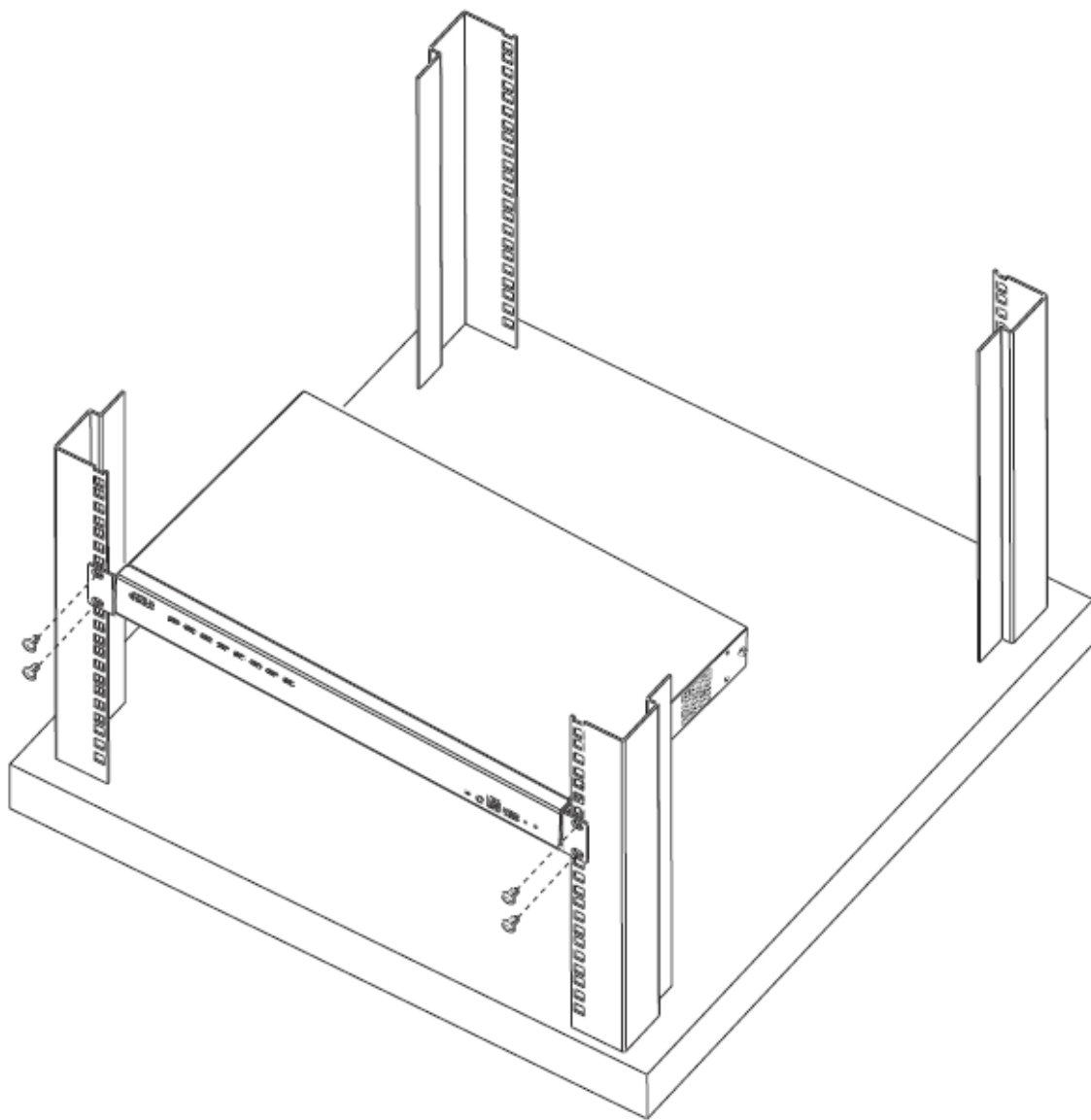
1. 本製品のフロント側近くにある左右両サイドのネジ(合計 2 個)を外してください。



2. ラックマウントキットに同梱された M3 プラスネジ 8mm を使用して、本製品のフロント側にある左右両サイドにラックマウントブラケットをネジ止めしてください。

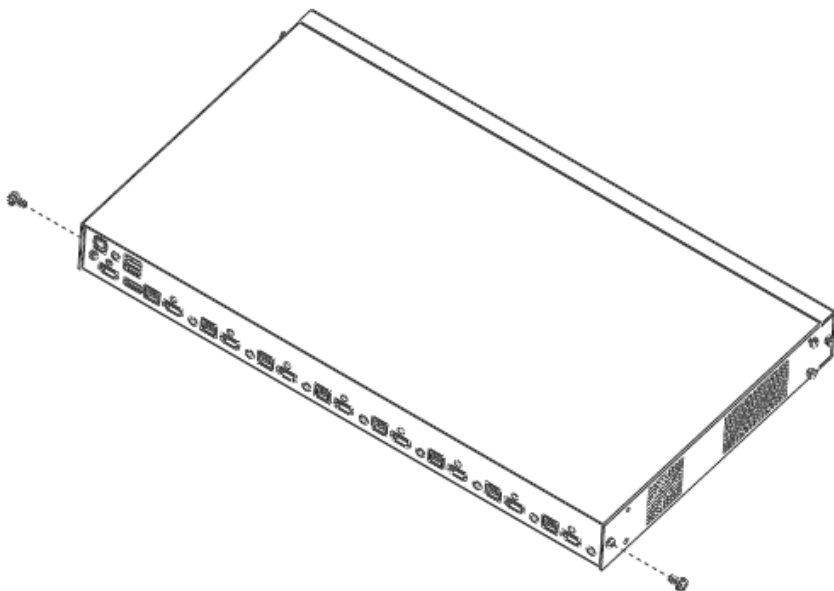


3. 本製品をラックに固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。マウント用ブラケットをラックのフロント側にネジ止めしてください。

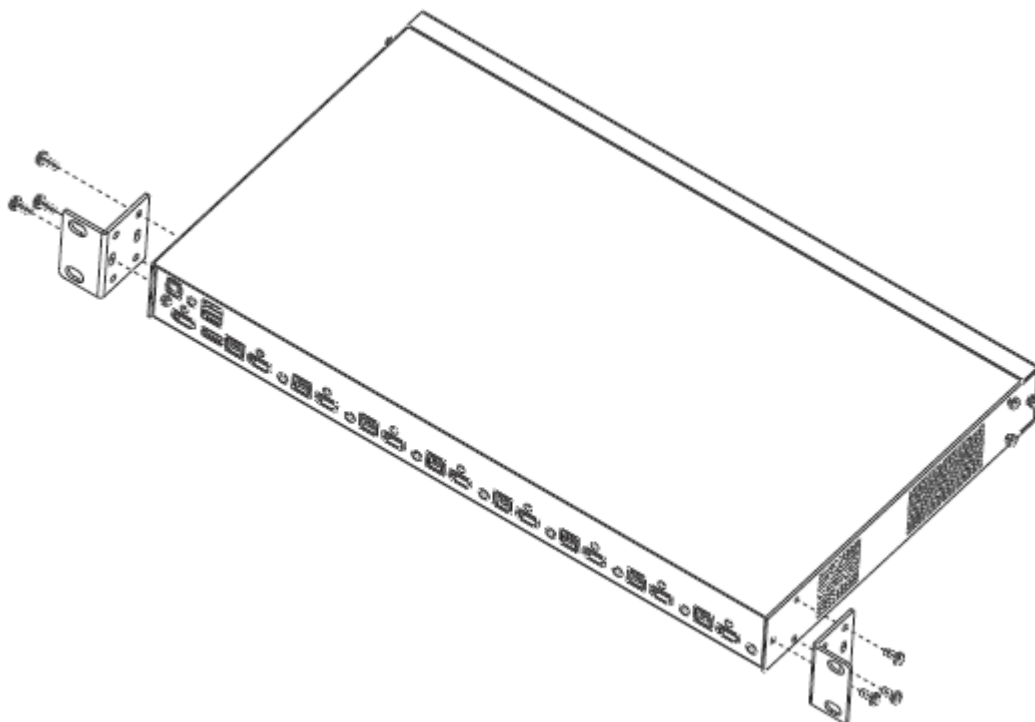


ラックのリア側への取付

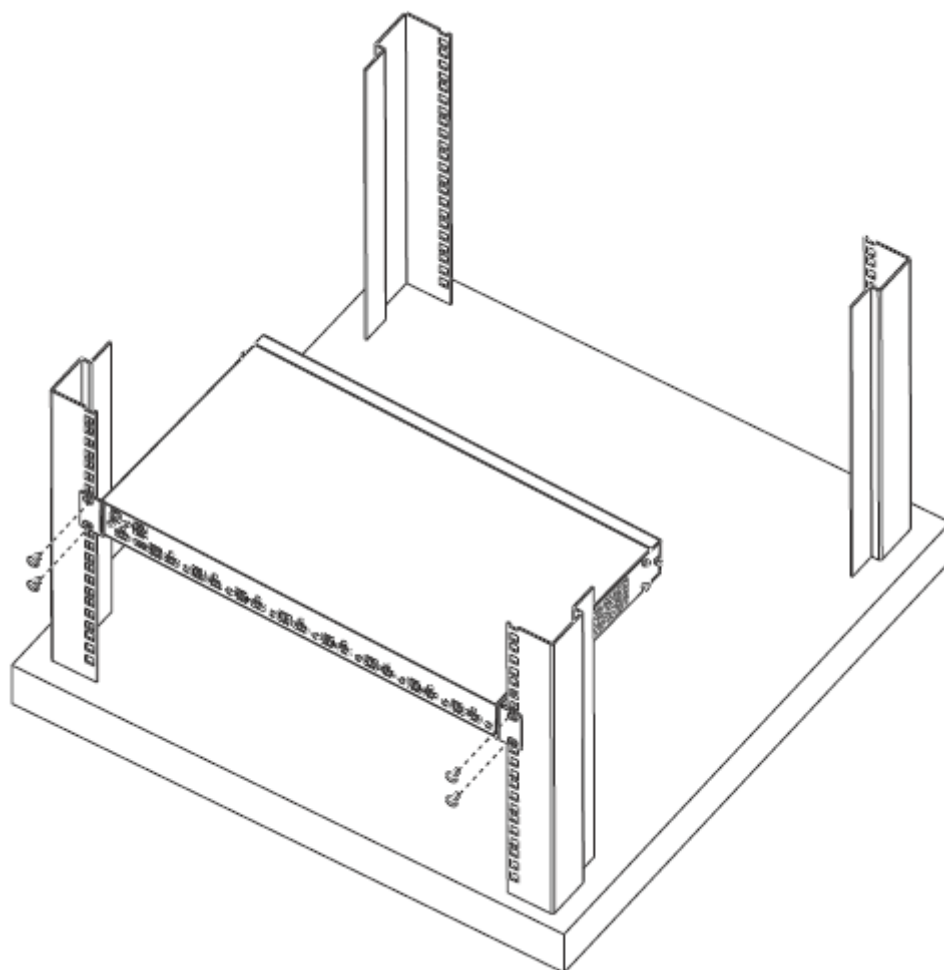
1. 本製品のリア側近くにある左右両サイドのネジ各 1 個 (合計 2 個) を外してください。



2. ラックマウントキットに同梱された M3 プラスネジ 8mm を使用して、本製品のリア側近くにある左右両サイドにラックマウントブラケットをネジ止めしてください。



3. 本製品をラックに固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。マウント用ブラケットをラックのフロント側にネジ止めしてください。



単体使用

CS1768/CS1768 を単体でセットアップするには、p.34 の「単体使用接続図」(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にして、以下の手順でセットアップを行ってください。

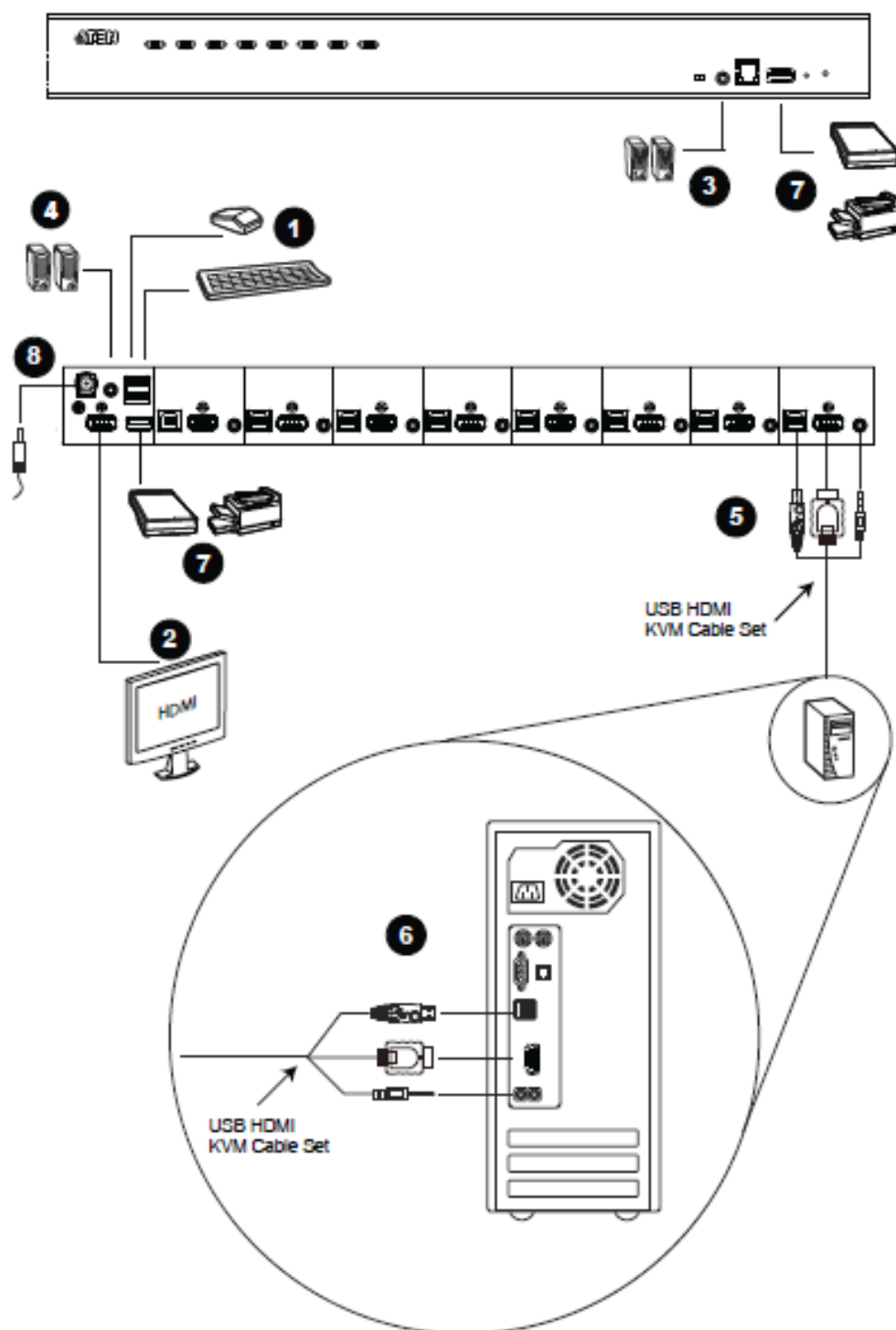
1. 本製品のリアパネルにある USB コンソールポートに USB キーボードと USB マウスを接続してください。
2. お使いの HDMI モニターを製品本体の HDMI コンソールポートに接続し、モニターの電源を入れてください。
3. メインのスピーカーを、本体のフロントパネルにあるスピーカージャックに接続してください。ここに接続されたスピーカーは、リアパネルに接続されたものより優先的に使用されます。
4. 2 台目のスピーカーを本体のリアパネルにあるオーディオポートに接続してください。
5. 製品同梱の専用 USB HDMI KVM ケーブルの HDMI コネクタを、製品本体の KVM ポートセクションにある任意の HDMI ポートに接続してから、それに付随する USB およびオーディオコネクタをそれぞれ対応する USB およびスピーカーポートに接続してください。

注意:

1. プラグすべてが同じ KVM ポートのポート(すべてポート 1、すべてポート 2 など)に接続されていることを確認してください。
2. CS1798/CS17916 で対応しているのは、スピーカーポートのみです。KVM ケーブルのマイク用コネクタは接続しないでください。

6. ケーブルのもう一端にある USB、ビデオ、およびスピーカーのコネクタをそれぞれコンピューターの適切なポートに接続してください。
7. USB デバイスを USB ハブセクションにある USB タイプ A ポートに接続してください。
8. 本製品に同梱している電源アダプターを電源コンセントに接続してから、その電源アダプターからのケーブルを本製品の電源ジャックに接続してください。
9. コンピューターの電源を入れてください。

接続図(単体使用)



2 段階カスケード接続

さらに多くのコンピューターを操作するには、1 段階目の CS1798/CS17916 の KVM ポートに CS1798/CS17916 を追加してカスケード接続します。1 段階目の CS1798/CS17916 にカスケード接続された CS1798/CS17916 は 2 段階目のスイッチであるとみなされます。2 段階カスケード接続では、最大 64 台 (CS1798)/256 台 (CS17916) のコンピューターが操作できます。コンピューターと CS1798/CS17916 の接続台数については p.87 の一覧表を参照してください。

2 段階カスケード接続のセットアップは、次ページの「2 段階カスケード接続セットアップ」の図を参考にして、以下の作業を行ってください。

1. 今から接続する機器および以前に取り付けられた機器すべてに電源が入っていないことを確認してください。
2. 専用 USB HDMI KVM ケーブル (p.18「ケーブル」参照) を使用して、1 段階目となる CS1798/CS17916 の任意の KVM ポートと 2 段階目の CS1798/CS17916 のコンソールポートを接続してください。

注意: USB タイプ A コネクタをコンソールセクションの下側にある USB ポート (キーボード) に接続してください (正しい USB ポートであることを示すために同じようなアイコンが両方に描かれています)。

3. 本製品に同梱されているもう 1 本の専用 USB HDMI KVM ケーブルの HDMI コネクタを、2 段階目のユニットの任意の KVM ポートセクションにある HDMI ポートに接続したら、それに付随する USB タイプ B およびスピーカーのコネクタを、それぞれ対応する USB とスピーカーの各ポートに接続してください。

注意: 1. プラグすべてが同じ KVM ポートのポート (すべてポート 1、すべてポート 2 など) に接続されていることを確認してください。各ポートには接続するデバイスを表すアイコンが描かれています。

2. CS1798/CS17916 で対応しているのは、スピーカーポートのみです。KVM ケーブルのマイクロフォン用コネクタは接続しないでください。

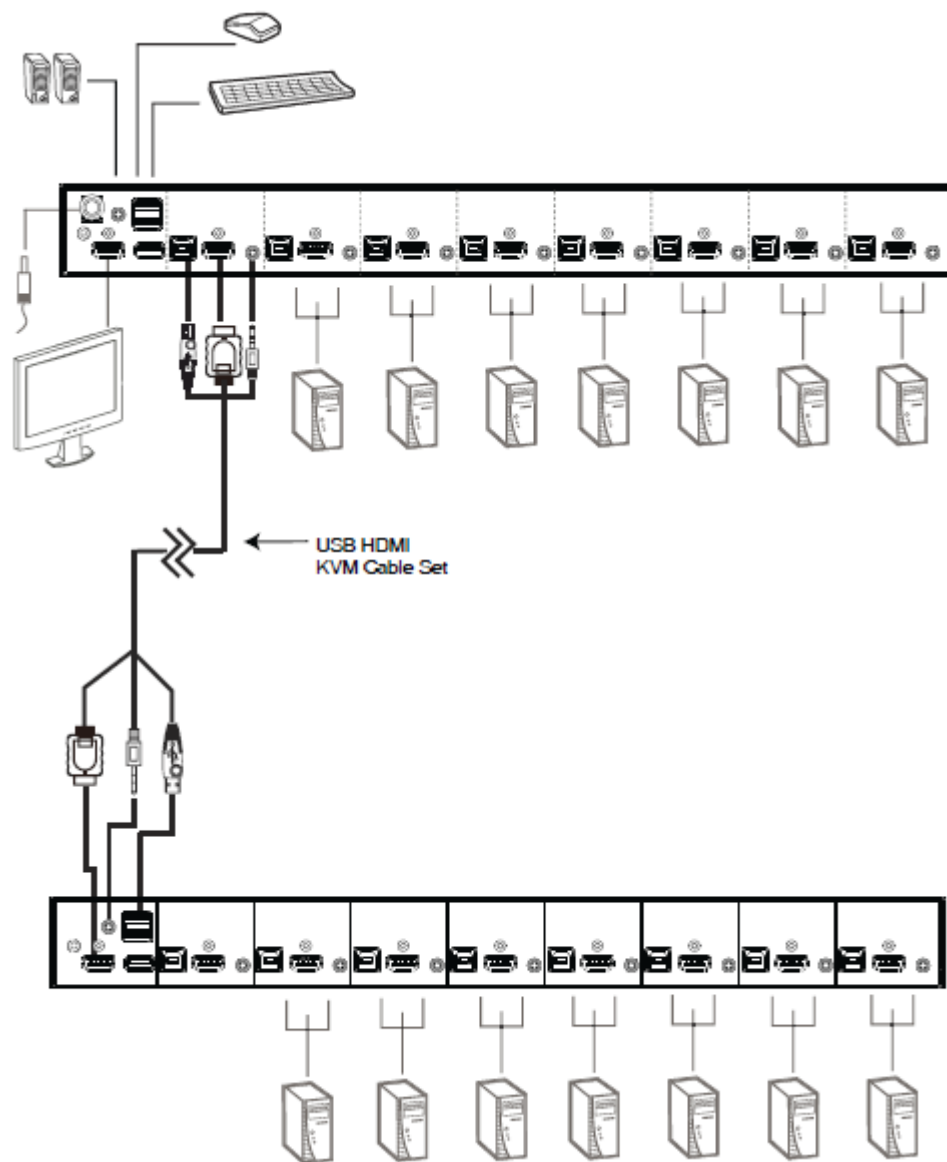
4. ケーブルのもう一端にある USB タイプ A、ビデオ、およびスピーカーのコネクタを、それぞれコンピューターの適切なポートに接続してください。

5. 他のセットアップするコンピューターに対して手順 3 と 4 を繰り返してください。
6. 2 段階目にある各 CS1798/CS17916 の電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続してから、電源アダプターを電源コンセントに接続してください。
7. 1 段階目の CS1798/CS17916 の電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続してから、電源アダプターを電源コンセントに接続してください。
8. コンピューターすべてに電源を入れてください。

注意:

1. 電源を入れる順序は、最初に 2 段階目の CS1798/CS17916 の電源を入れるようにしてください。2 段階目の CS1798/CS17916 すべてに電源が入ってから、次に 1 段階目の CS1798/CS17916 の電源を入れるようにしてください。そして、2 段階目と 1 段階目の CS1798/CS17916 の電源を入れてから、コンピューターの電源を入れてください。
2. カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。

2 段階カスケード接続図



3 段階カスケード接続

3 段階カスケード接続のセットアップ手順は 2 段階カスケード接続のセットアップ手順と基本的に同じです。CS1798 を 3 段階のカスケード接続でセットアップした場合、最大 512 のコンピューターを操作できます。コンピューターと KVM スイッチの接続台数については p.87 の一覧表を参照してください。

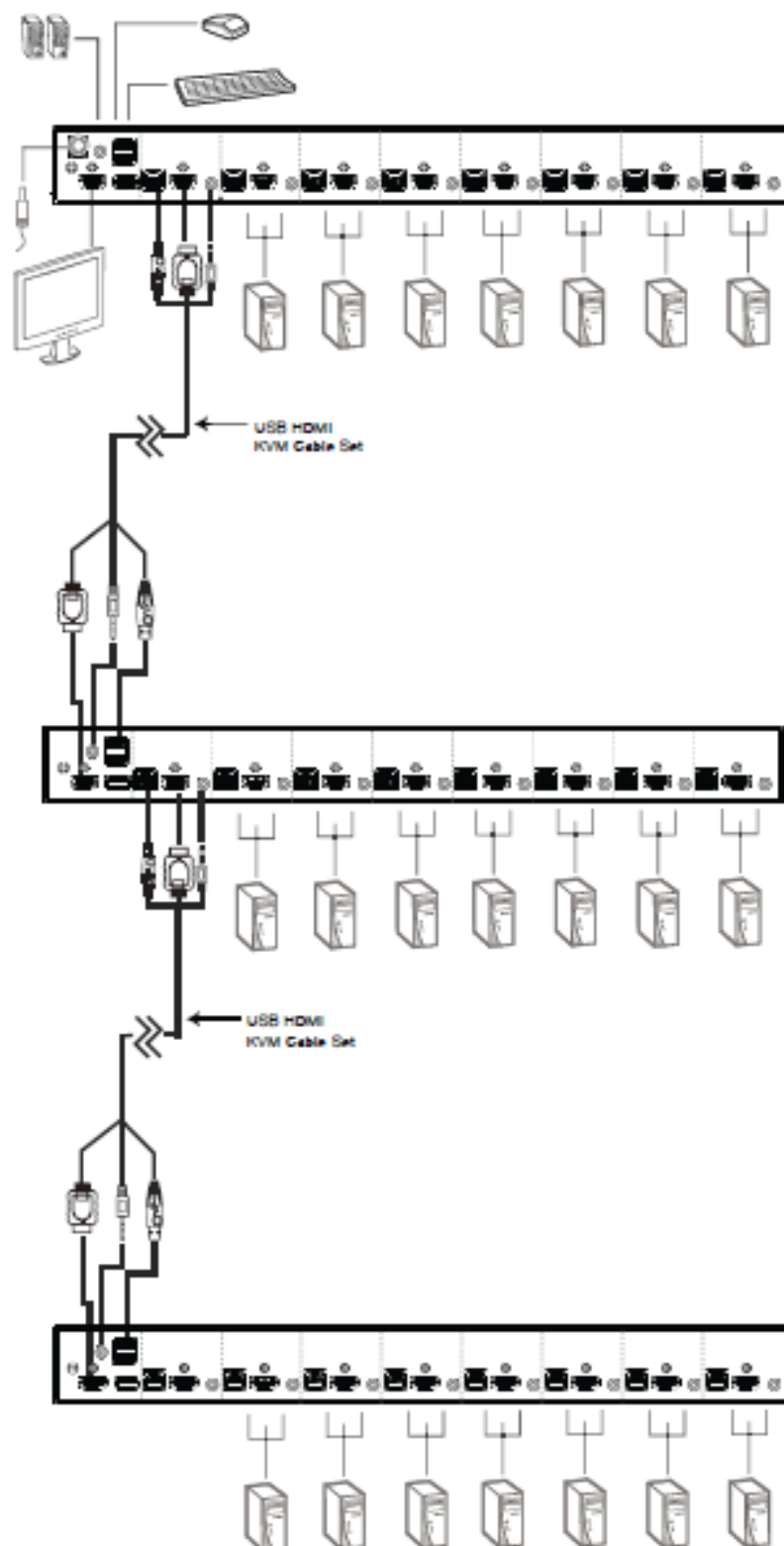
-
- 注意:**
1. CS1798 は最大 3 段階、また CS17916 は最大 2 段階のカスケード接続に対応しています。これを超えるカスケード接続はできません。
 2. CS1798 にカスケード接続できるのは CS1798 だけです。CS17916 の場合は、これを 1 段階目のユニットにして、配下には CS1798 または CS17916 をカスケード接続することができます。
-

ケーブルの接続が完了したら(p.35「2 段階カスケード接続」を参照)、下記の手順に従って電源を入れてください。

1. 3 段階目にある各ユニットの電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続したら、電源アダプターを電源コンセントに接続してください。
2. 2 段階目にある各ユニットの電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続したら、電源アダプターを電源コンセントに接続してください。
3. 1 段階目にあるユニットの電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続したら、電源アダプターを電源コンセントに接続してください。
4. コンピューターすべてに電源を入れてください。

-
- 注意:**
1. 電源を入れる順序は、最初に 3 段階目のユニットの電源を入れるようにしてください。3 段階目のユニットすべてに電源が入ってから、次に 2 段階目のユニットの電源を入れるようにしてください。2 段階目のユニットの電源が入ってから 1 段階目のユニットの電源を入れてください。この手順にしたがってユニットすべての電源を入れてから、コンピューターの電源を入れてください。
 2. カスケード接続の機器構成における 2 段階目と 3 段階目の KVM スイッチに接続されているコンピューターからは、USB2.0 ハブにアクセスすることができません。
-

3 段階カスケード接続図



マルチビュー機能を利用するためのセットアップ

CS1798/CS17916 のマルチビュー機能を利用すれば、本製品を 2 台/3 台/4 台接続して、2 分割/3 分割/4 分割表示させることができ、最大 7 台 (CS1798) /15 台 (CS17916) のコンピューターが一度に操作できるようになります。この機能を利用する場合、セットアップでは、標準的なカスケード接続とは異なるケーブル接続が必要になります。この方法を使えば、複数のビデオカードが取り付けられたコンピューターを使用し、複数のモニターをセットアップした環境において、より柔軟な方法で切り替えることができます。

注意: マルチビューの機器構成では、CS1798 同士、または CS17916 同士でしか接続することができません。

マルチビューセットアップのためのケーブル接続

マルチビュー機能を利用するには、次ページの接続図 (図中の番号は手順の番号に対応) を参考にして、以下の手順でセットアップを行ってください。

1. 標準 USB タイプ A - タイプ B ケーブルを使用して、1 台目となるユニットのポート番号 8 の USB タイプ B ポートと、2 台目となるユニットのコンソールセクションにある USB タイプ A ポートを接続してください。

注意: ポート番号 8 はマルチビュー機能を利用する環境でのユニット接続用に予約されています。このため、CS1798 の場合は KVM ポート番号 1~7 を使用して最大 7 台のコンピューターを、また CS17916 の場合は KVM ポート番号 1~7 と 9~16 を使用して最大 15 台のコンピューターを、それぞれ接続することができます。

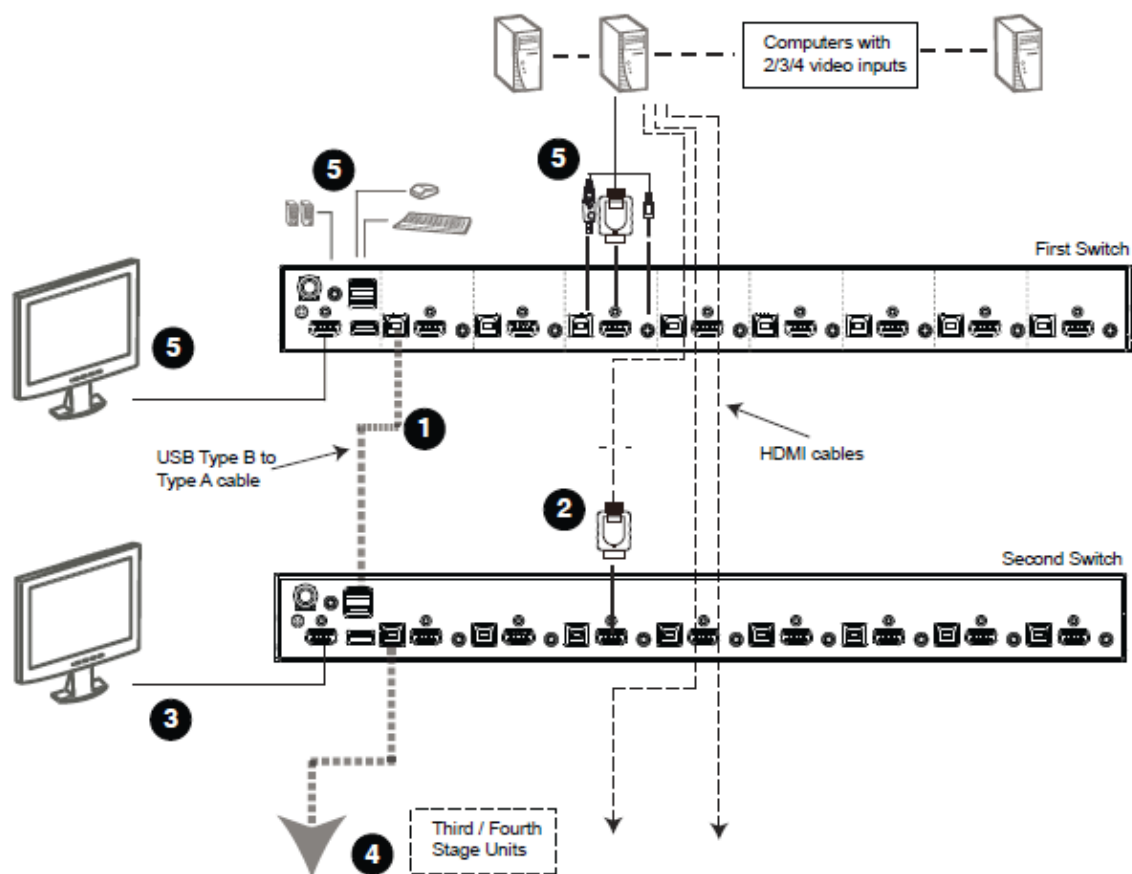
2. HDMI ケーブルを使用して、2 台目となる CS1798/CS17916 の HDMI KVM ポートとコンピューターのセカンドビデオ入力ポートとを接続してください。

注意: このセットアップでは、HDMI ビデオケーブルのみ必要となります。KVM セクションのその他のポートは必要ではありません。

3. 2 台目となるユニットのコンソールセクションにディスプレイを接続してください。

4. ユニットを追加するには、手順 1～3 を繰り返してください。ユニットは最大 8 台接続することができます。
5. 1 台目となるユニットにケーブルを接続してください。詳細は p.33「単体使用」を参照してください。ビデオ、オーディオおよび周辺機器はすべて 1 台目となるユニットに接続しなければなりません。
6. 1 台目となる CS1798/CS17916 から順に電源を入れたら、コンピューターの電源を入れてください。

マルチビューセットアップ接続図



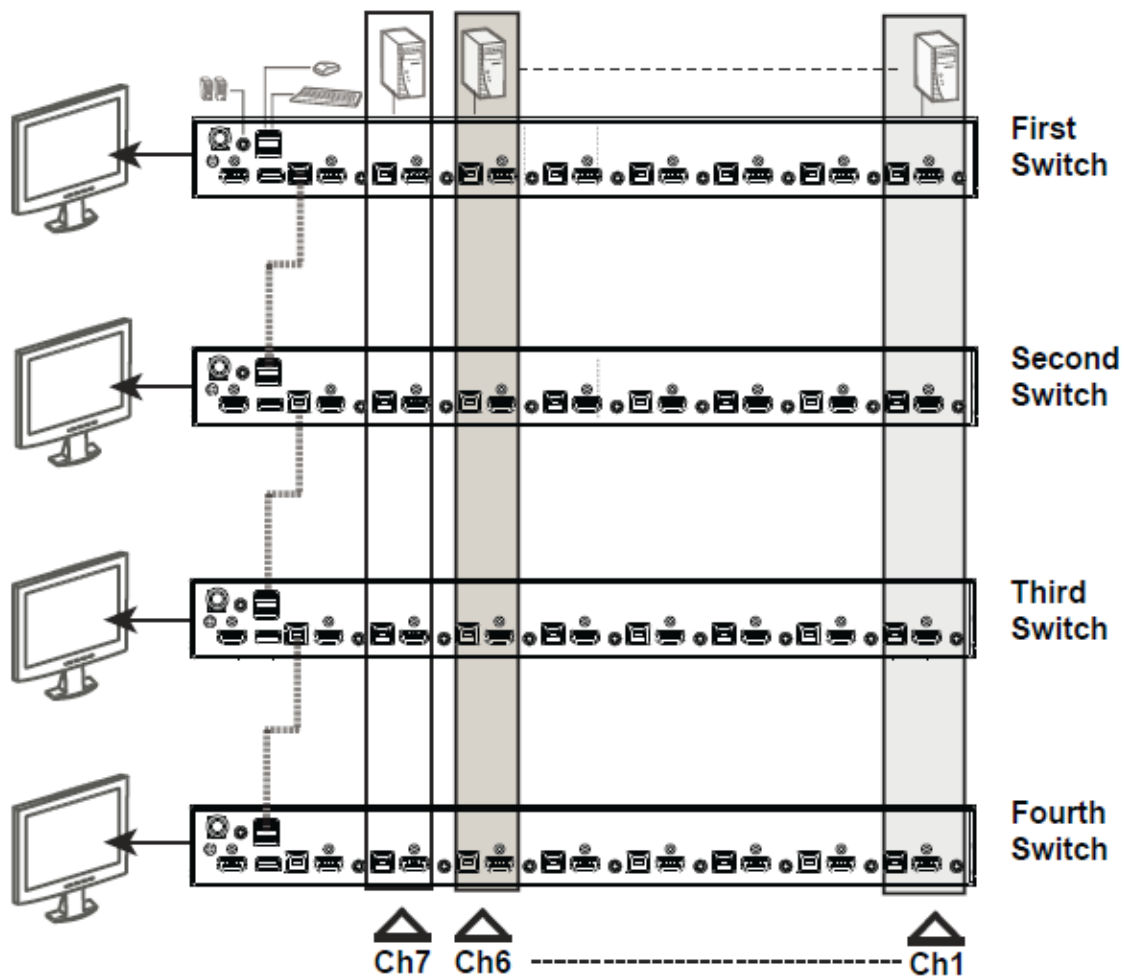
「垂直」チャンネルにポートをグループ化する方法

ケーブルが接続され、OSD でマルチビューモードが選択されると、CS1798/CS17916 はチャンネルと表示モードを自動的に検知します。ユーザーはその後、ポートネームとしてチャンネル番号（下図のように、チャンネルは縦方向の列で表されています）を割り当てることができます。したがって、ポート番号 1 すべてはチャンネル 1、ポート番号 2 すべてはチャンネル 2・・・ポート番号 7 すべてはチャンネル 7 というようになります。これらのポートすべてはチャンネル単位で同時に切り替えることができます。

接続台数に応じて、CS1798/CS17916 は 2 分割表示 (2 台接続)、3 分割表示 (3 台接続)、4 分割表示 (4 台接続)、またはマルチディスプレイ表示 (最大 8 台接続) することができます。参照用として、例では 4 分割表示機能が可能な 4 台接続を表しています。

注意： 1 台目となる CS1798/CS17916 の設定に応じて、一度に表示できるのは 1 系統の HDMI 信号のみです。

チャンネル接続図



第3章

基本操作

ホットプラグ

CS1798/CS17916はホットプラグに対応しているので、デバイスの取り外しや取り付けは、ポートからケーブルを抜き差しするだけでよく、製品本体の電源を切る必要はありません。ホットプラグを正しく動作させるためには下記に従ってください。

KVM ポートのホットプラグ

OSDメニューにKVMポートの変更を反映させるためには、新しいポート情報を手動で設定しなければなりません。詳細は、p.52「F3: SET」および p.55「F4: ADM」を参照してください。

注意： コンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合、この機能は正しく動作しない可能性があります。

コンソールポートのホットプラグ

キーボード、モニターおよびマウスすべてはホットプラグ可能です。マウスをホットプラグする場合は以下の点に注意してください。

- ◆ 例えばマウスをリセットする場合、同じマウスを使用するのであれば、そのマウスを外した後、再接続することができます。
- ◆ 別のマウスを接続する場合、接続しているコンピューターすべての電源を切って 10 秒間ほど経った後、p.35「2 段階カスケード接続」の手順 6、7、8 に従ってコンピューターの電源を入れてください。

注意： ホットプラグ後、キーボードやマウスが反応しない場合、フロントパネルのポート選択ボタンの 7 と 8 (CS1798) または 15 と 16 (CS17916) を同時に押して「キーボードとマウスのリセット」を実行してください。

ポートの選択方法

CS1798/CS17916 では、接続されたコンピューターの選択方法として、手動による選択、OSD(オンスクリーンディスプレイ)メニューによる選択、そしてホットキーによる選択の 3 つの方法をご用意しております。詳細は p.48「第 4 章 OSD 操作」および p.63「第 5 章 ホットキー操作」を参照してください。

手動による切替

手動でポートを切り替えるには、フロントパネルのポート選択ボタンを押してください。

ポート ID の割り当て

CS1798/CS17916 の各ポートにはポート ID が割り当てられています。OSD (p.48「OSD 操作」参照) またはホットキー (p.63「ホットキー操作」参照) によるポート選択のいずれかの方法で、コンピューターが接続されているポートのポート ID を特定して、全段階にある任意のコンピューターに直接アクセスすることができます。

- ◆ マスターステーションとなる CS1798/CS17916 に接続されたコンピューターには、その接続ポート番号と同じ 2 桁の数字がポート ID (CS1798 の場合は 01～08、CS17916 の場合は 01～16) として割り当てられます。
- ◆ スレーブステーションに接続されたコンピューターには 4 桁の数字がポート ID として割り当てられます。

前半の 2 桁の数字はマスターステーションの KVM ポート番号を表し、後半の 2 桁の数字は、コンピューターが接続されているスレーブステーションの KVM ポートを表します。例えば、ポート ID が「02-08」である場合、コンピューターはスレーブユニットの KVM ポート番号 8 に接続され、そのスレーブユニットはマスターユニットの KVM ポート番号 2 に接続されているということを表します。

シャットダウンと再起動

CS1798/CS17916 をシャットダウンする必要がある場合、以下の手順に従ってシャットダウンおよび再起動させてください。

1. 電源から CS1798/CS17916 を外してください。
2. 接続しているコンピューターすべてをシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能がついているコンピューターの場合は、電源ケーブルも抜いてください。電源につながったままになっていると、CS1798/CS17916 はコンピューターから給電され続けることになります。

3. 10 秒以上経ってから CS1798/CS17916 を電源につないでください。
4. コンピューターの電源を入れてください。

注意: CS1798/CS17916 をカスケード接続している場合は、カスケード接続している CS1798/CS17916 および接続されているコンピューターすべてを上記の手順と同様にシャットダウンしてください。

第4章

OSD 操作

OSD の概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)はキーボードやマウスを使用したメニュー形式で、コンピュータの管理や切替操作を行うものです。これらの操作はすべて OSD メイン画面からはじめます。

製造番号

「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフに、この MFG 番号をお伝えください。

OSD のログイン

OSD には 2 段階(アドミニストレーター/ユーザー)のパスワードシステムが組み込まれています。OSD メイン画面を呼び出す前にパスワードを入力するログイン画面が表示されます。初めて OSD を使用する場合、またはパスワードを設定していない場合は、そのまま[Enter]キーを押してください。OSD メイン画面がアドミニストレーターモードで表示されます。このモードでは、アドミニストレーター権限を有しているので、アドミニストレーター用およびユーザー用の機能すべてが使用でき、パスワード権限を含めた操作を設定することができます。パスワード機能を設定している場合は、OSD にアクセスする際に、アドミニストレーター用とユーザー用のパスワードを正しく入力してください。

OSD ホットキー

CS1798/CS17916 の任意のポートを表示させているときに[Scroll Lock]キーを 2 度押すと、コンソールモニターに OSD を表示することができます。

注意: OSD ホットキーを[Ctrl]キーの 2 度押しに変更することもできます(p.53「OSD HOTKEY」参照)。この場合、必ず同じ[Ctrl]キーを押すようにしてください。


OSD メイン画面

OSD を起動すると、下図のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. この図はアドミニストレーターのメイン画面です。F4 および F6 の機能はアドミニストレーターのみに限定された権限で、一般のユーザーはアクセスできないようになっているので、ユーザーのメイン画面には表示されません。
 2. OSD は常にリスト一覧の画面から開始します。このとき、ハイライトバーは、前回終了したときに選択していたアイテムと同じ位置を選択した状態になっています。
 3. ログインしたユーザーに対して、アドミニストレーターがアクセスを許可したポートのみが表示されます(詳細は p.56「SET ACCESSIBLE PORTS」(アクセス可能なポートの設定)を参照してください)。
 4. リストが折りたたまれている場合は、スイッチ番号をクリックするか、またはハイライトバーをそこへ移動させてから右矢印キーを押せば、リストが展開されます。同様に、リストを折りたたむ場合は、ポート番号をクリックするか、またはハイライトバーをそこへ移動させてから左矢印キーを押してください。
-

OSD メイン画面の項目

項目	説明
PN	この列には現在お使いの機器構成における、すべての KVM ポートのポート ID 番号が表示されます。ハイライトバーを移動させてから[Enter]キーを押すと特定のコンピュータにアクセスできます。
QV	クイックビュースキャン (p.58「SET QUICK VIEW PORTS」参照)をするようにポートが選択されている場合、この列に矢印が表示されます。
	コンピュータに電源が入っていてオンライン状態である時に、この列に太陽マークが表示されます。
NAME	ポートに名前がつけられている (p.57「EDIT PORT NAMES」を参照) 場合、この列にその名前が表示されます。

OSD ナビゲーション

- ◆ メニューをキャンセルする、または OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上にある「X」をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、「F8」をクリックするか、または[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角のマーク「▲▼」をクリックするか、またはキーボードの上下矢印キーを押してください。メイン画面の 1 画面に表示できる件数を超える項目がある場合は画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印「↑↓」をクリックするか、またはキーボードの[Pg Up] キーや[Pg Dn]キーを使用してください。メイン画面の 1 画面に表示できる件数を超える項目がある場合は画面がスクロールします。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、またはハイライトバーを移動させてから[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの操作を実行すると、メニューは自動的に 1 段階上の状態に戻ります。

OSD 機能

OSD の設定や操作を行うには OSD 機能を使用します。例えば、任意のポートへ素早く切り替えたり、スキャンするポートを選択したり、閲覧できるリストを制限したり、クイックビューポートを設定したり、ポート名の作成や編集をしたり、OSD 設定を調整したりすることが、この機能で実現できます。

OSD 機能にアクセスする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. メイン画面の上部にある任意のファンクションキーをクリックするか、またはキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されたら、それをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させてから **[Enter]** キーを押して選択してください。
3. **[Esc]** キーを押して一段階上のメニューに戻ってください。

F1: GOTO

OSD 画面上の「**F1**」をクリックするか、キーボードの **[F1]** キーを押すと、GOTO 機能を起動します。この GOTO 機能では、ポート名またはポート ID を入力すると直接そのポートへと切り替えることができます。この機能を利用する場合は、個別切替 (p.59 参照) が行えるようにマウスエミュレーション機能を有効にしておいてください。

- ◆ ポート名を入力する場合、**[1]** キーを入力してからポート名を入力し、**[Enter]** キーを押すと、KVM 操作、オーディオおよび USB デバイス操作が切り替わります。**[スペースキー]** を押すと、KVM 操作とオーディオのみが切り替わります。
- ◆ ポート ID を入力する場合、**[2]** キーを入力してからポート ID を入力し、**[Enter]** キーを押すと、KVM 操作、オーディオおよび USB デバイス操作が切り替わります。**[スペースキー]** を押すと、KVM 操作とオーディオのみが切り替わります。

注意: ポート名またはポート ID の一部を入力すると、現在のリスト表示の設定 (詳細は p.52「F2: LIST」参照) にかかわらず、そのポート名またはポート ID に該当するポートのうちユーザーが表示権限を持つもの (詳細は p.56「SET ACCESSIBLE PORTS」を参照) がすべて画面にリスト表示されます。

ポートの選択をしないで OSD メインメニューに戻るには、**[Esc]** キーを押してください。

F2: LIST

この機能を使用して OSD のメイン画面のリストに表示されるポートを増やしたり減らしたりすることができます。サブメニューの項目とその説明は下表のとおりです。

項目	説明
ALL	現在ログインしているユーザーが、アドミニストレーターによって表示権限を与えられているポートすべてをリスト表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.58「SET QUICK VIEW PORTS」を参照)として設定されたポートのみをリスト表示します。
POWERED ON	電源が入っているコンピューターのみリスト表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(p.58「SET QUICK VIEW PORTS」を参照)として設定されたポートであり、かつ、そのポートに接続されたコンピューターの電源が入っているポートをリスト表示します。

リストからポートを選択する場合は、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

F3: SET

この機能でアドミニストレーターおよびユーザー個々の作業環境の設定ができます。各ユーザーの個別プロファイルは OSD に保存され、ログイン時のユーザー名に反映されます。

設定を変更する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。
2. 項目を選択すると、さらに項目が選択できるサブメニューが表示されます。その項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこへ移動させてから[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。設定項目の説明は下表に表しています。

項目	説明
OSD HOTKEY	<p>OSD 機能を起動するホットキーを選択します。</p> <p>[Scroll Lock] [Scroll Lock]または[Ctrl] [Ctrl]</p> <p>[Ctrl]キーの入力は動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]の 2 度押しとなっています。</p>
PORT ID DISPLAY POSITION	<p>画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。</p> <p>マウス、矢印キーに加え、[Pg Up]、[Pg Dn]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を使用して、ポート ID の表示位置を選んでから、ダブルクリックするか、または[Enter]キーを押してその位置を決定し、設定のサブメニューに戻ってください。</p>
PORT ID DISPLAY DURATION	<p>ポートを切り替えてから画面にポート ID を表示する時間を設定します。設定は、3 秒間と Always Off (無)の 2 種類があります。</p>
PORT ID DISPLAY MODE	<p>ポート ID の表示方法を設定します。デフォルトは PORT NUMBER + PORT NAME で、ポート番号とポート名を表示します。また、PORT NUMBER はポート番号のみ、PORT NAME はポート名のみを表示します。</p>
SCAN DURATION	<p>オートスキャンモード (p.62「F7: SCAN」を参照) 時に各ポートを表示する時間を設定します。1～255 秒までの数字を入力した後、[Enter]キーを押してください。デフォルトは 5 秒間です。[0]を入力するとスキャン機能は無効となります。</p> <p>注意: オートスキャン機能が動作できるように、マウスエミュレーション機能を有効にしてください (p.59 参照)。</p>

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
SCAN - SKIP MODE	<p>スキップモード (p.60「F5: SKP」を参照) およびオートスキャンモード (p.62「F7: SCAN」を参照) でアクセスするコンピューターを選択します。設定内容は下記のとおりです。</p> <p>ALL - アクセス可能に設定されたすべてのポート (p.56「SET ACCESSIBLE PORTS」を参照)。</p> <p>QUICK VIEW - アクセス可能で、かつ、クイックビューポート (p.58「SET QUICK VIEW PORTS」を参照) として設定されたポートのみ。</p> <p>POWERED ON - アクセス可能で、かつ、コンピューターの電源が入っているポートのみ。</p> <p>QUICK VIEW + POWERED ON - アクセス可能でクイックビューポートとして設定されており、かつ、コンピューターの電源が入っているポートのみ。</p> <p>の 4 つがあります。デフォルトは ALL です。</p> <p>注意: アドミニストレーターのみがクイックビューを設定する権利を有しているため、このクイックビューポートの選択画面はアドミニストレーター用の OSD 画面にしか表示されません (詳細は p.58「SET QUICK VIEW PORT」を参照)。また、このスキャン-スキップモードが動作するように、マウスエミュレーション機能を有効にしておいてください (p.59 参照)。</p>
SCREEN BLANKER	<p>コンソールからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、画面がブランクになります。1～30 分の時間を入力してから[Enter]キーを押します。デフォルトでは[0]に設定され、この機能は無効となっています。</p>
HOTKEY COMMAND MODE	<p>ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合している場合に、ホットキーのコマンド機能を有効/無効に切り替えます。</p>
HOTKEY	<p>ホットキーモードを起動するキーを選択します (p.64 参照)。[Num Lock] + [-] (マイナスキー) または[Ctrl] + [F12] の 2 種類があります。</p>
OSD LANGUAGE	<p>OSD に表示される言語を設定します。言語は英語 (デフォルト)、ドイツ語、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、スペイン語、フランス語、ロシア語があります。</p>

F4: ADM

「F4:ADM」はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターは OSD の操作全般を設定したり管理したりできます。設定を変更するには、「F4:ADM」をダブルクリックするか、変更の対象となるアイテムまで上下の矢印キーでハイライトバーを移動させてから [Enter] キーを押してください。

項目を選択すると、サブメニューに更なる項目が表示されます。変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させてから [Enter] キーを押してください。選択する前にそれが何であるかを示すアイコンが表示されます。設定項目は下表のとおりです。

項目	説明
SET USER LOGIN	<p>この機能により、アドミニストレーターとユーザーのユーザー名およびパスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1名、ユーザー4名のユーザー名とパスワードが設定できます。2. アドミニストレーターフィールドまたはユーザーフィールドのうち、1 つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは半角英数字 (A～Z、0～9) およびその他の半角文字 (* () + : - , ? . / スペース) を使って、最大 16 文字で構成することが可能です。3. 各ユーザーに対し、ユーザー名とパスワードを入力した後、[Enter] キーを押してください。4. 以前登録したユーザー名やパスワードを修正したり消去したりする場合は、[Backspace] キーを使用して文字や数字を消去した後、[Enter] キーを押してください。 <p>注意: ユーザー名とパスワードは大文字/小文字の区別をしません。OSD では、ユーザー名がすべて大文字で表示されます。</p>

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
SET ACCESSIBLE PORTS	<p>この機能によりアドミニストレータはポートごとにユーザーのアクセス権を設定することができます。</p> <p>各ユーザーに対し、ポートを選択した後、[スペースキー]を押して F(フルアクセス)、V(モニタリングのみ)、または空白(アクセス不可)を選択してください。アクセス権すべてを設定するまで上記手順を繰り返し、最後に[Enter]キーを押してください。デフォルトではユーザーすべてに対しポートすべてが F(フルアクセス)となっています。</p> <p>注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「空白」と設定した場合、アクセス権がないことを意味し、メイン画面のユーザーのリストにはそのポートは表示されません。 ◆ アドミニストレータは常にすべてのポートにフルアクセスできるようになっています。
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定した時間内にコンソールからの入力がない場合、ユーザーは自動的にログアウトします。コンソールを再度使用するには改めてログインする必要があります。</p> <p>この機能は元々のユーザーがすでにコンピューターを使用していないのに、ログアウトするのを忘れてしまった際に、他のユーザーがコンピューターを使用できるようにするためのものです。タイムアウトの時間を設定するには、1～180 分の数字を入力した後、[Enter]キーを押してください。デフォルト設定は 0 で、この機能は無効となっています。</p> <p>注意:「Set Login Mode」(ログインモードの設定)機能が無効となっている場合、この機能はご利用いただけません。詳細は p.59「SET LOGIN MODE」を参照してください。</p>

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
EDIT PORT NAMES	<p>どのコンピューターがどのポートに接続されているかを覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレータはポート名を設定したり、編集したり、削除したりすることができます。</p> <p>ポート名の編集は以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集したいポートをクリックするか、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーをそのポートまで移動させ、[Enter]キーを押してください。 2. 新しいポート名を入力するか、以前のポート名を編集/削除してください。ポート名に使用できる文字数は最大 12 文字で以下の半角文字が使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ A～Z のアルファベット文字すべて ◆ 0～9 の数字すべて ◆ * () + : - , ? . / <p>ポート名は大文字と小文字は特に区別されませんが、OSD に表示されるポート名は大文字のみです。</p> 3. ポート名の編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更を有効にしてください。編集を中止するには[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、ポート名リスト、ユーザー名およびパスワード情報を除く、すべての変更事項を工場出荷時のデフォルト値に戻します(詳細は p.92「工場出荷時におけるデフォルトホットキーと設定」を参照)。
CLEAR THE NAME LIST	ポート名リストを削除します。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音を「Y」(有効)または「N」(無効)を選択してください。ビープ音を有効に設定すると、ポート切替時、オートスキャン機能有効時(p.62「F7: SCAN」参照)、OSD メニューで無効な入力をした際にビープ音が鳴ります。デフォルトは「Y」(有効)です。

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
SET QUICK VIEW PORTS	<p>この機能を使用してアドミニストレーターはどのポートをクイックビューポートとするか設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして選択する/選択しない場合は、そのポートをダブルクリックするか、またはナビゲーションキーを使用してハイライトバーを移動させてから[スペースキー]を押してください。 ◆ クイックビューポートとして選択されたポートには、メイン画面の LIST の QV の列にアイコンが表示されます。選択していないポートには、このアイコンは表示されません。 ◆ クイックビューのオプションの 1 つがリストの一覧 (p.52「F2: LIST」を参照) として選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ クイックビューのオプションの 1 つがオートスキャン (p.54「SCAN-SKIP MODE」を参照) として選択されている場合、ここで選択されたポートだけをオートスキャンします。 <p>デフォルトでは、どのポートもクイックビューとして選択されていません。</p>
SET OPERATING SYSTEM	<p>この機能を使用してアドミニストレーターは、各 KVM ポートに接続されたコンピューターの OS が設定できます。デフォルトの OS は Windows (PC 互換) です。</p> <p>各ポートに OS の設定を行うには下記の作業を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リストからコンピューターの OS を設定するポートを選択してください。 2. [スペースキー]を押して、WIN、MAC、SUN または OTHER (その他) を選択してください。 3. 設定が終了したら[Esc]キーを押してください。選択した OS が KVM ポートに反映されます。
FIRMWARE UPGRADE	<p>CS1798/CS17916 のファームウェアをアップグレードさせるには、この設定で「ファームウェアアップグレード」モードを有効にする必要があります (p.78 参照)。</p> <p>このメニューを選択すると現在のファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を選択し、有効にせずメニューを終了する場合は[N]を選択してください。</p>
KEYBOARD LANGUAGE	<p>各 KVM ポートに接続されたコンピューターのキーボード言語を設定します。言語を選択するには、それをダブルクリックするか、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーをそこまで移動させてから[Enter]キーを押してしてください。</p> <p>言語の選択は、デフォルトの AUTO (自動)、英語 (US/UK)、ドイツ語 (ドイツ/スイス)、フランス語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、中国語 (簡体字/繁体字) があります。</p>

(表は次ページへと続きます。)

項目	説明
MOUSE EMULATION	<p>マウスエミュレーション機能を有効/無効にします。</p> <p>注意:この機能は1段階目のステーションにのみ対応します。ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください。</p>
ACTIVATE multi-display	<p>複数のビデオカードが取り付けられたコンピューターを使用し、複数のモニターをセットアップした環境において2分割、3分割、4分割表示を行うためのマルチビューモードを有効にします。詳細は p.40「マルチビュー機能を利用するためのセットアップ」を参照してください。</p> <p>注意:マルチビューモードは、ケーブルを接続する前に OSD で有効にしておかなければなりません。</p>
OSD CONFIG BACKUP/ RESTORE	<p>OSD 設定のバックアップ/リストアモードを有効にします。ファームウェアアップグレードユーティリティで CS1798/CS17916 の現在の OSD 設定をバックアップし、必要に応じてリストアすることができます。現在の OSD の設定内容を保存しておく、同じ設定内容を複数台にセットアップする際に便利です。詳細は p.84「OSD 設定のバックアップ/リストア」を参照してください。</p>
SET LOGIN MODE	<p>アドミニストレーターはこの機能を使用して、ユーザーにログインの有無を要求することができます。ログインダイアログボックスが無効の場合、システムはログイン/ログアウト機能を無効にします。システムが再起動した場合でも、ログイン/ログアウト機能は無効のままとなります。</p>

F5: SKP

「F5」をクリックするか、キーボードの[F5]キーを押すと「スキップ」(SKP)モードを起動します。この機能を使用すると、現在 KVM 操作ができるポートから前後のアクセス可能なポートへと簡単に KVM 操作を切り替えることができます。スキップモードを機能させるには、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。

- ◆ スキップモード切替ができるコンピューターの選択は、「F3: SET」機能における「SCAN－SKIP MODE」で行うことができます(p.54 参照)。

- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

[←]: 現在のポートからリスト内のアクセスできる 1 つ前のポートにスキップします。

[→]: 現在のポートからリスト内のアクセスできる 1 つ後のポートにスキップします。

[↑]: 現在のポートからリスト内のアクセスできる 1 つ後のポートにスキップします。そのポートに CS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 のアクセスできる最初のポートにスキップします。

[↓]: 現在のポートからリスト内のアクセスできる 1 つ前のポートにスキップします。そのポートに CS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 のアクセスできる最後のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、「SCAN－SKIP MODE」(p.54 参照)の選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません。

- ◆ ポートが「SCAN－SKIP」モードで選択されると、KVM 操作を切り替えた際に、そのポート ID の前に左向き/右向きの三角形が表示されます。ポート ID にこの三角形が表示されると背景画面はブランクとなります。
- ◆ スキップモードの有効時、通常のコソール操作はできません。コソールで操作する場合は、スキップモードを中止してください。
- ◆ 選択したポートが表示されると、スキップモードは自動的に無効になります。
- ◆ スキップモードを中止するには[スペースキー]または[Esc]キーを押してください。

F6: BRC

「F6: BRC」はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。「F6」をクリックするか、キーボードの[F6]キーを押すと、この「一斉送信」(BRC)機能を起動します。この機能を有効にすると、コンソールからのコマンドは接続しているすべての利用可能なコンピューターに一斉送信されます。

この機能は、例えばシステム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップグレード作業など、複数のコンピューターで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードの有効時は現在 KVM 操作ができるポートのポート ID の前にスピーカーマークが表示されます。ポート ID にこのスピーカーマークが表示されると背景画面はブランクとなります。
- ◆ BRC モードの有効時、マウス操作はできません。マウスを操作する場合は、BRC モードを中止してください。
- ◆ BRC モードを中止するには OSD ホットキーを使用して OSD を起動させ、「F6」をクリックするか、[F6]を押してください。
- ◆ BRC モードの有効時は、[Scroll Lock]の LED ランプが点滅します。BRC モードを中止し、通常の状態に戻ると、点滅を中止します。

F7: SCAN

「F7」をクリックするか、[F7]キーを押すと、「オートスキャン」モードを有効にします。この機能では手動で切替作業をすることなく、稼働中のコンピューターを一定の時間間隔で自動的に切り替え、コンピューターの動作状況を監視することができます。オートスキャンを機能させるには、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。

- ◆ オートスキャン時を含め、表示するコンピューターの選択は「F3: SET」の「SCAN – SKIP MODE」の設定で行います (p.54 参照)。
- ◆ 各ポートの表示時間は「F3: SET」機能の「SCAN DURATION」で設定します (p.53 参照)。あるポートでスキャンを止めるには[スペースキー]を押してください。
- ◆ コンピューターが接続されていないポート、または電源の入っていないコンピューターが接続されたポートをオートスキャンした場合、モニター画面はブランクとなり、キーボードとマウスは動作しません。スキャン時間が過ぎれば、スキャン機能は次のポートへと移動します。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているコンピューターにはポート ID の前に「S」マークが表示されます。ポート ID にこのマークが表示されると背景画面はブランクとなります。
- ◆ オートスキャンモード中、通常のコソール操作はできません。コソール操作を行う場合は、オートスキャンモードを中止してください。
- ◆ オートスキャンモード中、任意のポートで一時停止したい場合は、[P]キーを押すかマウスを左クリックしてください。詳細は p.66「オートスキャンモードの起動」を参照してください。
- ◆ オートスキャンモードを中止する場合は、[スペースキー]または[Esc]キーを押してください。

F8: LOUT

「F8」をクリックするか、または[F8]キーを押すと OSD をログアウトし、コソール画面表示が消えます。これは OSD メイン画面を表示している間に[Esc]キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。この機能を使用した場合、OSD に再びアクセスするにはもう一度最初からログインしなければならないのに対し、[Esc]キーを使用した場合は、OSD ホットキーを入力するだけで OSD に再びアクセスすることができます。

-
- 注意:**
1. ログアウト後に OSD に再びアクセスする際、ログインダイアログボックスが表示される以外は何も表示されません。操作を続けるにはユーザー名とパスワードを入力してください。
 2. ログアウト後に再び OSD にアクセスし、OSD メニューからポートを選択しないまま[Esc]キーで OSD を解除すると、画面に Null Port のメッセージが表示されます。OSD 起動ホットキーを使用すると OSD メイン画面が表示されます。
-

第5章

ホットキー操作

ホットキーによるポートの操作

ホットキーによるポートの操作とはキーボード入力から直接コンピューターを切り替えて KVM 操作ができるようにするものです。CS1798/CS17916 では、ホットキーを使って以下のようなポート操作ができます。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替*
- ◆ スキップモードによる切替*
- ◆ コンピューター キーボード/マウスリセット
- ◆ マウスエミュレーションの有効/無効*

ホットキーモードでは以下の設定も可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD のデフォルト値への復元

注意: ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。

ホットキーモード

ホットキーモードは、お使いの CS1798/CS17916 の設定を行う際に使用します。操作を行う前には、必ずホットキーモードを起動します。

ホットキーモードの起動

ホットキーモードを起動する際には、次の操作を行ってください。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-](マイナス)キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

または

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーから指を離してください。
[Ctrl] + [F12]

ホットキーモードが有効である場合、

- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインのプロンプトには青地に白い文字で「Hotkey:」と表示され、入力したホットキー情報がこれに続いて表示されます。
- ◆ 通常のキーボード/マウス操作はできません。後続のセクションで説明するホットキーに関連したキーだけが入力可能です。

[Esc]キーを押すと、ホットキーモードが解除できます。

アクティブなポートの選択

各 KVM ポートにはポート ID が割り当てられています (p.46「ポート ID の割り当て」参照)。接続されたコンピューターのポート ID をホットキーで指定すると、直接そのコンピューターにアクセスすることができます。手順は以下の通りです。

1. 以下のどちらかを入力してホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]
2. ポート ID を入力してください。
ポート ID は入力すると、コマンドラインに表示されます。入力を間違えた場合は、[Backspace] キーで消去してください。
3. [Enter] キーを押してください。
[Enter] キーの入力後、KVM 操作がそのコンピューターへと切り替わり、ホットキーモードは自動的に解除されます。

注意： ホットキーモードで無効なスイッチやポート ID を入力した場合、ポートは切り替わりません。有効なスイッチまたはポート ID を入力するか、ホットキーモードを解除するまでホットキーコマンドラインは画面に表示されたままになります。

オートスキャンモード

「オートスキャン」機能は「SCAN-SKIP」モードでアクセス可能と設定された KVM ポート間を一定の時間間隔で自動的に切り替えることができるので、コンピューターの動作を自動的に監視することができます。詳細については p.54「SCAN-SKIP MODE」をご参照ください。

オートスキャンの起動

オートスキャンを起動するには、下記のホットキーを入力してください。

1. マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。
2. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]
3. [A]キーを入力した後、[Enter]キーを入力してください。ホットキーモードは自動的に解除され、オートスキャンが起動します。
 - ◆ オートスキャンモード中に任意のポートで一時停止したい場合は、[P]キーを押すか、またはマウスを左クリックしてください。オートスキャンモードの一時停止中は、コマンドラインに「Auto Scan: Paused」と表示されます。
オートスキャンモード中に、あるポートのコンピューターを監視し続けたい場合、オートスキャンモードを解除するより、この一時停止機能を利用したほうが便利です。一時停止した後、オートスキャンモードを再開すると、その一時停止したコンピューターからオートスキャンを再開するのに対し、オートスキャンモードを解除してから再び開始させると、接続された最初のコンピューターからオートスキャンを始めるからです。
オートスキャンを再開するには任意のキーを押すか、マウスの左クリックをしてください。一時停止したコンピューターからオートスキャンが再開します。
 - ◆ オートスキャンモードの動作中は、通常のキーボード/マウス操作はできません。オートスキャンモードに対応したキー入力しかできません。通常のキーボード/マウス操作を再開するには、オートスキャンモードを解除してください。
3. オートスキャンモードを解除するには、[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。オートスキャンモードを解除すると、オートスキャンを中止します。

注意: ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。

スキップモード

この機能を使うと、モニタリングするコンピューター間を手動で切り替えることができます。一定の時間間隔で自動的に切り替わるオートスキャン機能と違い、この機能では任意のポートを任意の時間でモニタリングすることができます。スキップモードを開始するには、以下のホットキーを入力してください。

1. マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。
2. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]
3. [矢印]キーのいずれかを入力してください。
 - ◆ [矢印]キーは以下の表に描かれた矢印キーを指します。キーボードの矢印キーを入力した後、自動的にホットキーモードは解除され、下表の方法で切り替えたポートからスキップモードが開始します。

←	アクセス可能な前のポートにスキップします(アクセスできるポートに関してはp.54「SCAN－SKIP MODE」を参照してください)。
→	アクセス可能な次のポートにスキップします。
↑	アクセス可能な次のポートにスキップします。アクセス可能な次のポートにCS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 にあるアクセス可能な最初のポートにスキップします。
↓	アクセス可能な前のポートにスキップします。アクセス可能な前のポートにCS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 にあるアクセス可能な最後のポートにスキップします。

- ◆ スキップモード有効時は、矢印キーを押してポートをスキップしていくことができるので、再度、[Num Lock] + [-]などのホットキーを入力する必要はありません。
 - ◆ スキップモード有効時は、通常のキーボード/マウス操作はできません。スキップモードに対応したキーのみが入力できます。通常のキーボード/マウス操作を行うには、スキップモードを解除しなければなりません。
3. スキップモードを解除するには、[Esc]キーまたは[スペースキー]を押してください。

注意: ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.59 参照)。

キーボード/マウスのリセット

現在選択しているポートに接続されたコンピューターでキーボードまたはマウスが動作しなくなった場合は、そのコンピューターに対しキーボード/マウスをリセットしてください。この機能は、対象のコンピューターでキーボードやマウスを外して接続しなおすのと基本的に同じようなものです。キーボード/マウスをリセットするには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [F5]キーを押してください。

[F5]の入力後、ホットキーモードは自動的に解除され、KVM ポートに接続されたコンピューターでキーボード/マウスを再び操作できるようになります。[F5]の入力後でもコンピューターでキーボード/マウス操作ができない場合は、コンソールキーボードおよびマウスのリセットを実行してください。詳細は、p.19「ポート選択ボタン」を参照してください。

ホットキービープ音の設定

ビープ音 (p.57「ACTIVATE BEEPER」参照) は下記のホットキーで ON または OFF にできます。ビープ音の設定を行うには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押した後、ビープ音が ON または OFF になります。コマンドラインに 1 秒間「Beeper On」または「Beeper Off」と表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードを解除します。

クイックホットキーの切替

クイックホットキー (p.54「HOTKEY」参照) は、[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] のいずれかに設定することができます。このキーを変更するには以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [H]キーを押してください。

[H]キーを入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。

OSD ホットキーの設定

OSD にアクセスする際に使用するホットキー (p.53「OSD HOTKEY」参照) は [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] のいずれかに変更することができます。OSD ホットキーを変更するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [T]キーを押してください。

[T]キーの入力後、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」と1秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。

ポート OS の設定

ポート OS はそのポートに接続しているコンピューターの OS に合わせて変更することができます。ポート OS を変更するには、以下のホットキーを入力してください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. 下表に示された[ファンクション]キーのいずれかを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

ファンクションキーの入力後、ホットキーモードは自動的に解除されます。

ホットキーのデフォルト値への復元

これはアドミニストレーターに限定された操作です。下記の手順を行って CS1798/CS17916 のホットキーをデフォルト設定 (p.92「工場出荷時におけるデフォルトホットキーと設定」を参照) に戻すことができます。デフォルト値に戻すには、以下のホットキーを入力してください。

1. 下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [R]キーを押してください。

3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーの入力後、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」と3 秒間表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードが解除されます。

USB リセット

USB デバイスがコントロールを失いリセットする必要がある場合は、以下の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを有効にします (p.64 参照)。
2. [F5]キーを押してください。

ビープ音 オン/オフ

ビープ音はホットキーで有効または無効にすることができます。デフォルトではビープ音が有効になっています。ビープ音の設定を変更するには以下の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを有効にします (p.64 参照)。
2. [B]キーを押してください。

この操作を行うと、ビープ音を有効または無効に交互に切り替えます。

ビデオダイナシク

ビデオダイナシクは、ブート時のディスプレイ問題を回避し、ポート間を切り替えた際の解像度を最適化する ATEN の独自技術です。ビデオダイナシク機能を起動するには、以下を行ってください。

1. ホットキーモードを起動してください (p.64 参照)。
2. [D]キーを押してください。

注意: モニターを外した後、再接続すると、CS1798/CS17916 はビデオダイナシクを再実行します。

マウスエミュレーション設定

デフォルトは有効になっています。無効にするには、以下を行ってください。

1. ホットキーモードを起動してください(p.64 参照)。
2. [M]キーを押してください。

この手順は有効と無効を交互に繰り返します。有効に戻すには上記を繰り返してください。

注意: ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください。

ホットキーモード一覧表

ホットキーモード (p.64 参照) を起動した後、下表のいずれかのキーを押してください。

ホットキー	説明
[PN] [Enter]	KVM 操作、オーディオ、USB デバイスを、対応するポート ID のコンピューターへ直接切り替えます。(PN=ポート番号)
[PN] [K] [Enter]	KVM 操作のみを、対応するポート ID のコンピューターへ直接切り替えます。(PN=ポート番号)
[PN] [U] [Enter]	USB デバイスのみを、対応するポート ID のコンピューターへ直接切り替えます。(PN=ポート番号) 注意: このホットキー機能は、カスケード接続の 1 段階目のステーションにのみ有効です。
[A] [Enter]	オートスキャンモードを起動します。デフォルトでは、5 秒間隔でポート間の表示を順次切り替えます。
[A] [n] [Enter]	オートスキャンを n 秒間隔で行います。($n=1\sim 255$ 秒)
[H]	ホットキーモード起動キーをデフォルト値の [Num Lock] + [–] と代替キーの [Ctrl] + [F12] へと交互に変更します。
[T]	OSD 起動キーをデフォルト値の [Scroll Lock] [Scroll Lock] から代替キーの [Ctrl] [Ctrl] へと交互に変更します。
[F1]	ポートの OS を Windows に設定します。
[F2]	ポートの OS を Mac に設定します。
[F3]	ポートの OS を Sun に設定します。
[F5]	対象のコンピューターでキーボード/マウスをリセットします。
[B]	ビープ音を ON/OFF に切り替えます。
[R] [Enter]	ホットキーの設定をデフォルト値に戻します。p.92「工場出荷時におけるデフォルトホットキーと設定」を参照してください。
[D]	ビデオダイナシンクを起動します。これはブート時のディスプレイ問題を回避し、ポート間を切り替えた際の解像度を最適化する ATEN の独自技術です。
[M]	マウスエミュレーションを有効/無効に変更します。

(表は次ページへと続きます。)

ホットキー	説明
[←]	スキップモードを起動し、リストにある前のコンピューターへとスキップします。
[→]	スキップモードを起動し、リストにある次のコンピューターへとスキップします。
[↑]	スキップモードを起動し、次のアクセス可能なポートへとスキップします。次のアクセス可能なポートに CS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 にあるアクセス可能な最初のポートへとスキップします。
[↓]	スキップモードを起動し、前のアクセス可能なポートへとスキップします。前のアクセス可能なポートに CS1798/CS17916 がカスケード接続されている場合は、その CS1798/CS17916 にあるアクセス可能な最後のポートへとスキップします。
[Esc]または [スペースキー]	ホットキーモードを解除します。

注意： ポートの個別切替を実行したり、オートスキャンモードやスキップモードを機能させたりする場合は、マウスエミュレーション機能を有効にしてください(p.64 参照)。

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード



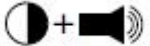




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意： 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

Window ベースのファームウェアアップグレードユーティリティを使用して、セットアップされたすべての CS1798/CS17916 のファームウェアを自動的にアップグレードさせることができます。アップグレードのプログラムは各デバイスに対する個別のファームウェアアップグレードパッケージの一部として提供されます。

CS1798/CS17916 の最新ファームウェアが利用可能になると、弊社の Web サイトにファームウェアアップグレードパッケージとして公開されます。弊社 Web サイトにて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。 <http://www.atenjapan.jp/>

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

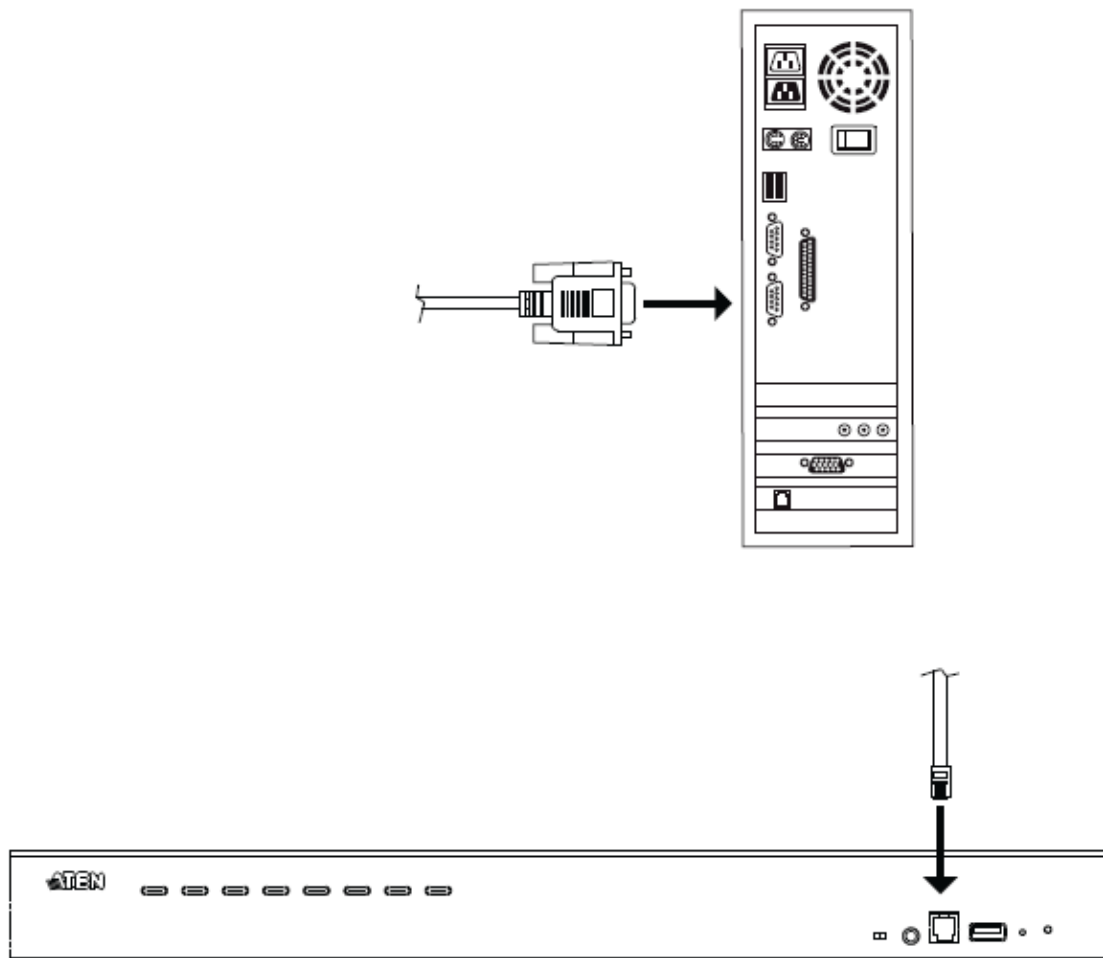
ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. 製品に接続されていないコンピューターから ATEN のインターネットサポートサイトにアクセスし、お使いのデバイス (CS1798/CS17916) の型番をリストから選択してください。利用可能なファームウェアアップグレードパッケージの一覧が表示されます。
2. インストールしたいファームウェアアップグレードパッケージ (通常は最新版) を選択し、このパッケージをお使いのコンピューターにダウンロードしてください。

ファームウェアアップグレードの準備

ファームウェアアップグレードの準備をするには、以下の手順に従ってください。

1. 本製品に同梱されている「ファームウェアアップグレードケーブル」を使用して、コンピュータの COM ポートと本製品の「ファームウェアアップグレードポート」を接続してください。



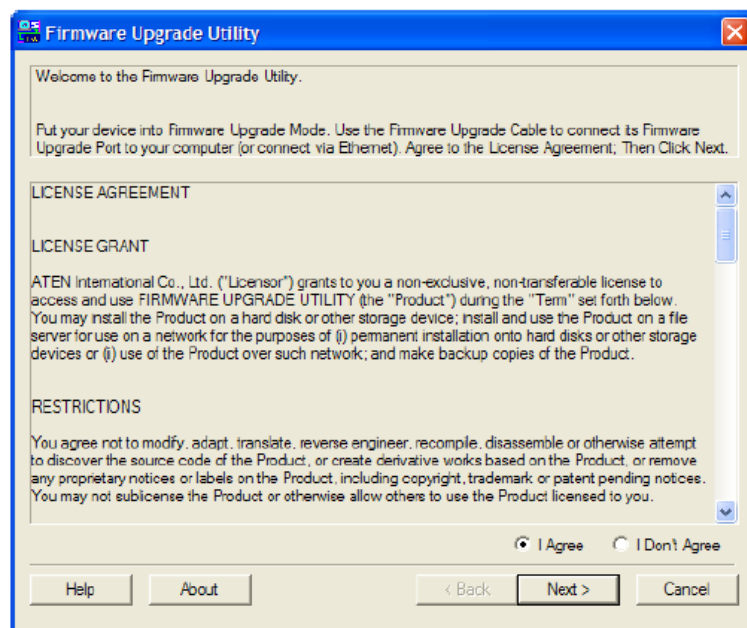
2. 本製品に接続されているコンピュータすべてをシャットダウンしてください。
3. KVM スイッチのコンソールでアドミニストレーターとして OSD にログイン (p.48 参照) してから「F4: ADM」機能を選択してください。
4. 下にある「FIRMWARE UPGRADE」までスクロールしてください。それから[Enter]キーを押した後、[Y]キーを押して「ファームウェアアップグレード」モードを起動してください (p.58 参照)。

アップグレードの開始

ファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

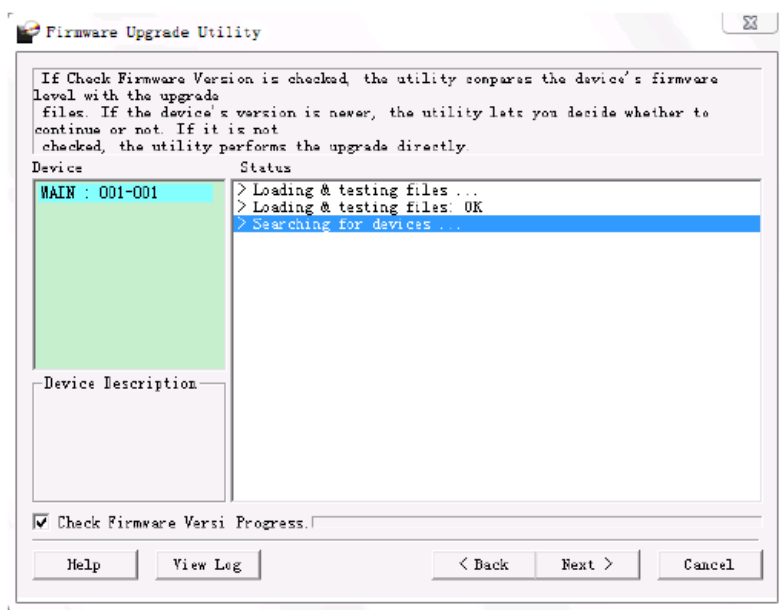
1. ダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージファイルのアイコンをダブルクリックするか、またはフルパスをコマンドラインに指定するかして、ファームウェアアップグレードパッケージを実行してください。

「Firmware Upgrade Utility」の初期画面が表示されます。



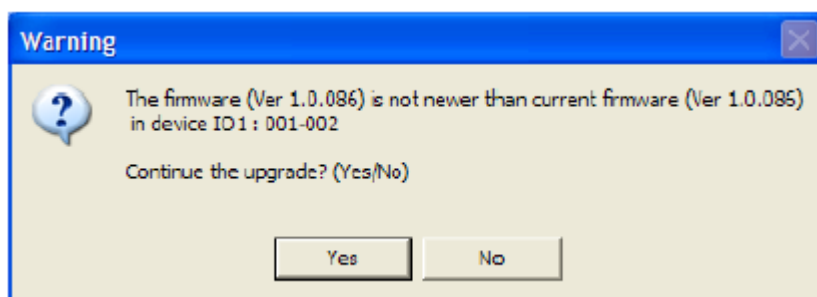
注意： 本章で描かれている画面は参考用です。実際の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」の画面上の文言やレイアウトはマニュアルの図とは多少異なることがあります。

2. ライセンス使用許諾契約を確認し、同意する場合は「I Agree」ボタンを有効にしてください。
3. 「Next」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。アップグレード可能なデバイスが、「Device List」に一覧表示されます。



4. 「Next」をクリックしてアップグレードを実行してください。

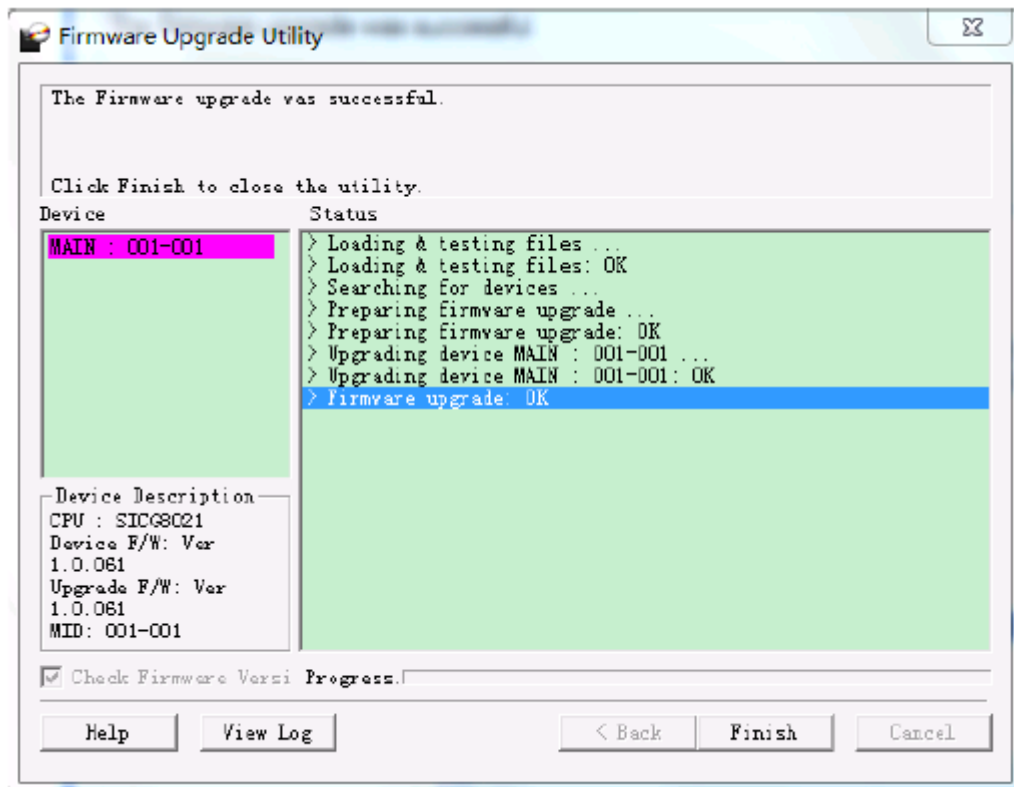
「Check Firmware Version」を選択すると、ユーティリティはデバイスのファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較します。デバイスのファームウェアのバージョンがアップグレードファイルのバージョンよりも新しければ、ダイアログボックスにその旨が表示されるので、このままアップグレードを続けるか、キャンセルするかを選択してください。



「Check Firmware Version」を有効にしなかった場合、ユーティリティはデバイスのファームウェアとアップグレードファイルのバージョンを比較せずにそのままインストールします。アップグレードの進行具合は「Status Message Panel」に表示され、また「プログレスバー」に進捗状況が表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了すると、アップグレードが成功したことを表す画面が表示されます。



「Finish」をクリックして、「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を終了してください。

アップグレード失敗

「アップグレード成功」の画面が表示されない場合、アップグレードに失敗したことを意味します。その場合、どのように続けるかは、次項の「ファームウェアアップグレードの復元」を参照にしてください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

ファームウェアアップグレードのリカバリー(復元)が必要な場合には以下の 3 つの状況があります。

- ◆ ファームウェアアップグレードを手動で中止した場合。
- ◆ メインボードのファームウェアアップグレードに失敗した場合。
- ◆ I/O ファームウェアアップグレードに失敗した場合。

ファームウェアアップグレードをリカバリーするには、以下の手順に従ってください。

1. 製品本体の電源を切ってください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルをファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**Recover**」(復元)の位置にスライドさせてください。
4. 製品本体に電源を入れて、アップグレードの手順を繰り返してください。
5. アップグレードに成功したら、製品本体の電源を切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを元の「**Normal**」(通常)の位置に戻してください。
6. カスケード接続されている場合は、ユニットを元のカスケード接続の位置に戻してください。
7. 製品本体の電源を入れてください。

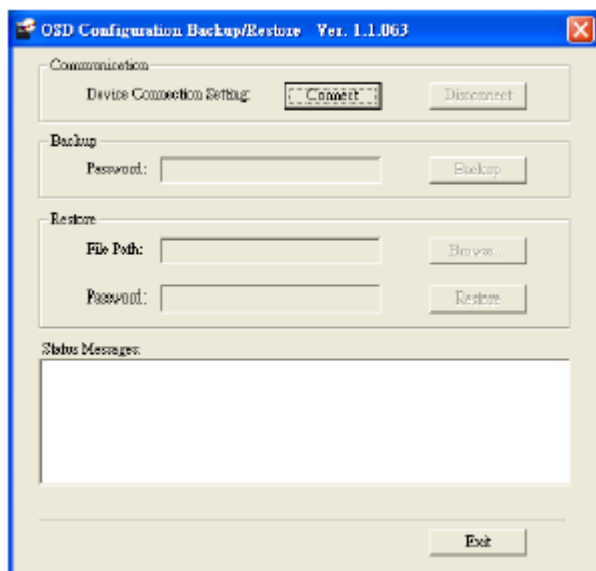
OSD 設定のバックアップ/リストア

ファームウェアアップグレードユーティリティを使用すると、CS1798/CS17916 の現在の OSD 設定をバックアップし、必要に応じてそれをリストアすることができます。OSD 設定内容を保存しておくと、同じ設定内容を複数台にセットアップする際に便利です。

バックアップ

ローカルコンピューターにバックアップファイルを保存するには、下記の手順に従ってください。

1. コンピューターが CS1798/CS17916 に接続されていることを確認してください。p.79「ファームウェアアップグレードの準備」の手順 1～3 を参照してください。
2. 「F4:ADM」を選択したら、「OSD CONFIG BACKUP/RESTORE」までスクロールしてください。[Enter]キーを入力した後、[Y]キーを入力して、OSD 設定のバックアップ/リストアモードを起動してください。
3. ファームウェアアップグレードユーティリティを実行してください。ダイアログボックスから「OSD Configuration Backup/Restore」(OSD 設定のバックアップ/リストア)を選択してから、「Next」(次へ)をクリックしてください。
4. ウィンドウが表示されたら、「Connect Device」(デバイスを接続)を選択してください。



5. 「Password」(パスワード)欄にファイルのパスワードを入力してください。

注意: パスワードの設定はオプションです。パスワードを設定しない場合、パスワードを入力することなく、ファイルをリストアすることができます。

6. 「**Backup**」(バックアップ)をクリックしてください。
7. ブラウザにてファイルに対する操作を確認するので、「Save to disk」(ディスクに保存)を選択して、ファイルを任意の場所に保存してください。

リストア

ローカルコンピューターからバックアップしたファイルリストアするには、下記の手順に従ってください。

1. 前ページの「バックアップ」を参照して、手順 1～3 を行ってください。
2. 「**Restore**」(リストア)をクリックして、ローカルコンピューターに保存した OSD 設定を復元してください。この機能に対して、過去にパスワードを設定している場合は、「**Restore**」(リストア)をクリックする前に、パスワード欄にそのパスワードを入力してください。確認のウィンドウが表示されたら、「**Yes**」をクリックして次に進んでください。
3. ご使用になる OSD 設定ファイルを参照してから、「**Restore**」(リストア)をクリックしてください。バックアップファイルがローカルコンピューターにあることを確認してください。
4. リストアが成功すると、確認ウィンドウが表示されます。「**OK**」をクリックして、それを閉じてください。

付録

CS1798/CS17916 接続台数一覧表

下表は CS1798/CS17916 の台数とそこから操作できるコンピューターの台数を示しています。

CS1798

台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター
1	1～8	20	134～141	39	267～274	58	400～407
2	8～15	21	141～148	40	274～281	59	407～414
3	15～22	22	148～155	41	281～288	60	414～421
4	22～29	23	155～162	42	288～295	61	421～428
5	29～36	24	162～169	43	295～302	62	428～435
6	36～43	25	169～176	44	302～309	63	435～442
7	43～50	26	176～183	45	309～316	64	442～449
8	50～57	27	183～190	46	316～323	65	449～456
9	57～64	28	190～197	47	323～330	66	456～463
10	64～71	29	197～204	48	330～337	67	463～470
11	71～78	30	204～211	49	337～344	68	470～477
12	78～85	31	211～218	50	344～351	69	477～484
13	85～92	32	218～225	51	351～358	70	484～491
14	92～99	33	225～232	52	358～365	71	491～498
15	99～106	34	232～239	53	365～372	72	498～505
16	106～113	35	239～246	54	372～379	73	505～512
17	113～120	36	246～253	55	379～386		
18	120～127	37	253～260	56	386～393		
19	127～134	38	260～267	57	393～400		

CS17916

台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター
1	1～16	20	63～79	39	127～143	58	191～207
2	16～31	21	79～95	40	143～159	59	207～223
3	31～47	22	95～111	41	159～175	60	223～239
4	47～63	23	111～127	42	175～191	61	239～256

製品仕様

機能		CS1798	CS17916
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大(カスケード)	512	256
コンソール接続数		1	
コンピュータ側対応インターフェース	キーボード	USB	
	マウス		
コンソール側対応インターフェース	キーボード	USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピュータ側コネクター	キーボード/マウス	USB タイプ B メス×8	USB タイプ B メス×16
	モニター	HDMI メス×8	HDMI メス×16
	スピーカー	ステレオミニジャック×8	ステレオミニオジャック×16
コンソール側コネクター	キーボード	USB タイプ A メス×1	
	モニター	HDMI メス×1	
	マウス	USB タイプ A メス×1	
	スピーカー	ステレオミニジャック×2 (フロント側×1、リア側×1)	
スイッチ	ポート選択	プッシュボタン×8	プッシュボタン×16
	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ファームウェアアップグレード	スライドスイッチ×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1	
USB2.0 ハブポート		USB タイプ A メス×2(フロント側×1、リア側×1)	
電源ジャック		DC 電源ジャック×1	
LED	USB リンク	グリーン×8	グリーン×16
	オンライン/選択	オレンジ×8	オレンジ×16
	電源	ダークグリーン×1	

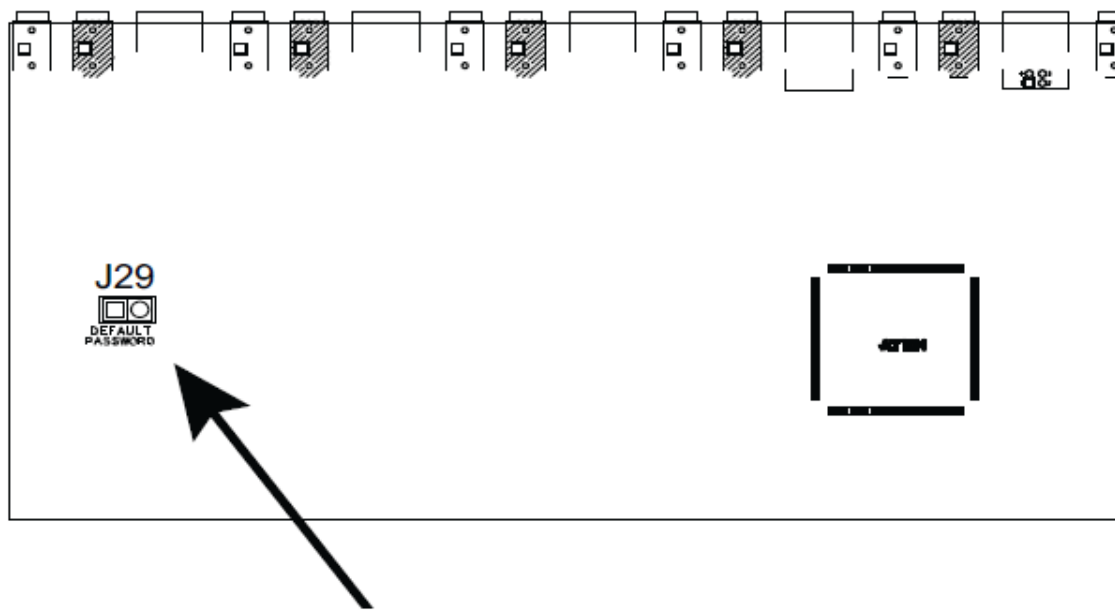
(表は次のページに続きます)

機能		CS1798	CS17916
キーボード・マウスエミュレーション		USB	
最大解像度		1080p / 1,920×1,200@60Hz	
スキャンインターバル		1～255 秒 / 5 秒(デフォルト)	
電源仕様(アダプター)		型番:0AD8-8005-40EG 入力:AC100V～240V 50～60Hz 出力:DC5V、4A	
消費電力		12W	12.2W
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		3.49kg	3.86kg
サイズ(W×D×H)		438×257×44mm	
同梱品		2L-7D02UH×2 ファームウェアアップグレードケーブル×1 電源アダプター×1 フットパッドセット(4pcs)×1 ラックマウントキット×1 クイックスタートガイド×1	
対応 KVM ケーブル		《HDMI KVM ケーブル》 2L-7D02UH (1.8m)	
カスケード対応製品		CS1798	CS1798、CS17916

アドミニストレーターによるログイン失敗

アドミニストレーターがユーザー名やパスワードを間違えたり、または忘れてしまったりして、アドミニストレーターとしてログインが不可能な場合、下記の作業を行ってログイン情報を消去してください。

1. CS1798/CS17916 の電源を切り、ケースを取り外してください。
2. ジャンパーキャップを使用して、「J29」と書かれた所をショートさせてください。



3. 製品本体の電源を入れてください。
4. フロントパネルの LED が点滅したら、本製品の電源を切ってください。
5. 「J29」からジャンパーキャップを外してください。
6. ケースを元に戻し、CS1798/CS17916 に電源を入れてください。

電源を入れると、デフォルトのユーザー名とパスワード(p.48「OSD のログイン」参照)を使用してログインできます。

工場出荷時におけるデフォルトホットキーと設定

設定	ホットキー	デフォルト値
OSD の起動 (デフォルト/代替)	[T]	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ホットキーモードの起動	[H]	[Num Lock]+[－]
オートスキャンインターバル	[A] [Enter]	5 秒間
マウスエミュレーション	[M]	有効
ポート切替キー (ON/OFF)	[X][Enter]	有効
ビーブ音	[B]	有効
ビデオダイナシンク	[D]	有効